

II 章 青森県の概況

1. 人口動向

- 青森県の人口は1,475千人（平成12年国勢調査）であり、過去10年間における人口増減率をみると減少傾向となっている。また、平成37年までの推計人口変化率を見ると、青森県の減少率は、全国平均・東北平均を共に上回る-10.42%である
- 一方、人口が減少しているのに対して、世帯数は増加傾向にあるが、平成32年には減少傾向になると予測されている。
- 青森県の年齢構成別人口の推移をみると、東北地方・全国の動向と同様に少子高齢化の傾向が顕著であり、平成37年には、更にその傾向が強まるものと予測されている。

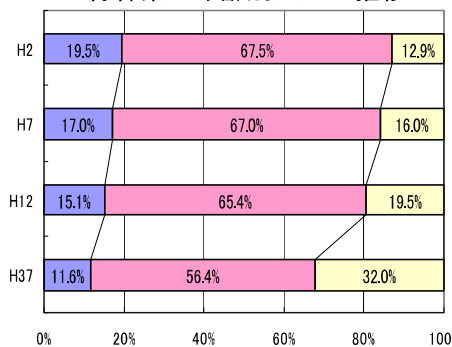
人口の推移（単位：人）

	H2	H7	H12	H37 (推計人口)	増減率		
					H2→H12	H7→H12	H12→H37
青森県	1,482,873	1,481,663	1,475,728	1,322,000	-0.48%	-0.40%	-10.42%
岩手県	1,416,928	1,419,505	1,416,180	1,282,000	-0.05%	-0.23%	-9.47%
宮城県	2,248,558	2,328,739	2,365,320	2,363,000	5.19%	1.57%	-0.10%
秋田県	1,227,478	1,213,667	1,189,279	972,000	-3.11%	-2.01%	-18.27%
山形県	1,258,390	1,256,958	1,244,147	1,079,000	-1.13%	-1.02%	-13.27%
福島県	2,104,058	2,133,592	2,126,935	1,926,000	1.09%	-0.31%	-9.45%
東北	9,738,285	9,834,124	9,817,589	8,944,000	0.81%	-0.17%	-8.90%
全国	123,611,167	125,570,246	126,925,843	121,136,000	2.68%	1.08%	-4.56%

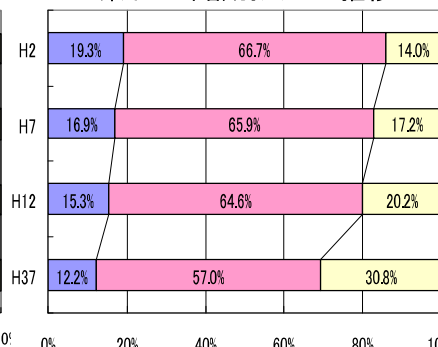
世帯数の推移（単位：世帯）

	H2	H7	H12	H32 (推計人口)	増減率		
					H2→H12	H7→H12	H12→H32
青森県	453,425	480,829	504,373	499,144	11.2%	4.9%	-1.0%
岩手県	426,288	452,461	474,660	465,679	11.3%	4.9%	-1.9%
宮城県	692,436	774,830	831,669	933,803	20.1%	7.3%	12.3%
秋田県	357,557	373,972	388,424	361,904	8.6%	3.9%	-6.8%
山形県	340,521	359,297	376,219	374,240	10.5%	4.7%	-0.5%
福島県	603,712	652,011	686,225	730,286	13.7%	5.2%	6.4%
東北	2,873,939	3,093,400	3,261,570	3,365,056	13.5%	5.4%	3.2%
全国	40,670,475	43,899,923	46,782,383	48,853,376	15.0%	6.6%	4.4%

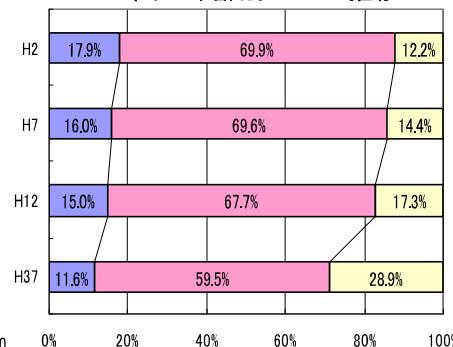
青森県の年齢別人口の推移



東北の年齢別人口の推移



全国の年齢別人口の推移



■ 15歳未満 ■ 15～64歳人口 □ 65歳以上

資料：国勢調査（平成2年～平成12年）及び「将来推計人口」人口問題研究所（平成32年・37年）

2. 産業動向

(1) 農業

○青森県の農業産出額（平成16年）は全国で8位となっている。品目別では特産品であるリンゴの収穫量及び産出額が全国で1位である。なお、ナガイモ・ゴボウ・ニンニクの収穫量も全国で1位である。

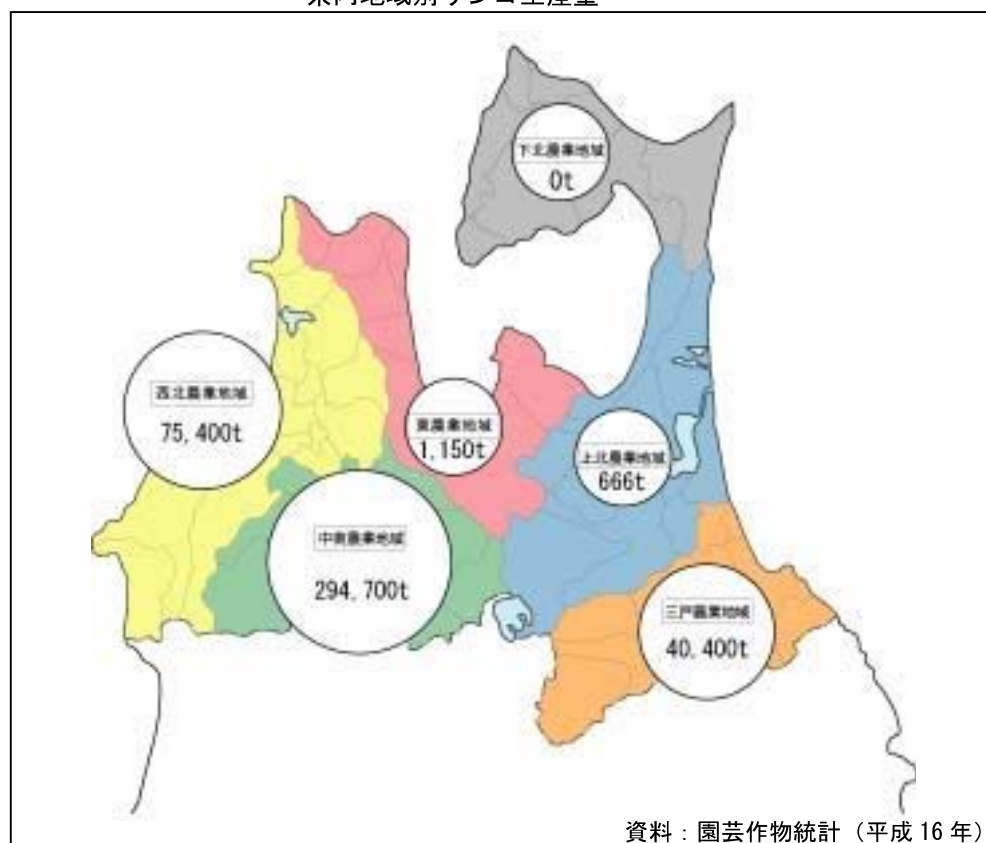
○県内の地域別リンゴ生産量をみると、津軽地域が生産・集積の一大拠点となっている。

青森県の農業生産量・農業生産額（平成16年）

項目		単位	青森県	東北	全国	青森県 ／東北	青森県 ／全国	東北 順位	全国 順位
農業 生産量 等	水稲収穫量	t	315,200	2,399,000	8,730,000	13.1%	3.6%	6	11
	リンゴ収穫量	t	412,400	581,930	754,600	70.9%	54.7%	1	1
	乳用牛飼養頭数	頭	17,300	151,900	1,690,000	11.4%	1.0%	4	20
	肉用牛飼養頭数	頭	56,700	409,900	2,788,000	13.8%	2.0%	4	17
	野菜収穫量	t	467,300	972,300	14,527,000	48.1%	3.2%	-	-
農業 生産額	農業産出額	億円	2,953	14,170	89,143	20.8%	3.3%	1	8
	米	億円	607	5,332	20,142	11.4%	3.0%	6	11
	野菜	億円	695	2,416	21,333	28.8%	3.3%	1	9
	果実	億円	783	1,757	7,624	44.6%	10.3%	1	1
	うちリンゴ	億円	733	1,081	-	67.8%	-	1	-
	畜産	億円	689	3,713	26,192	18.6%	2.6%	2	11

資料：青森県農林水産部資料

県内地域別リンゴ生産量

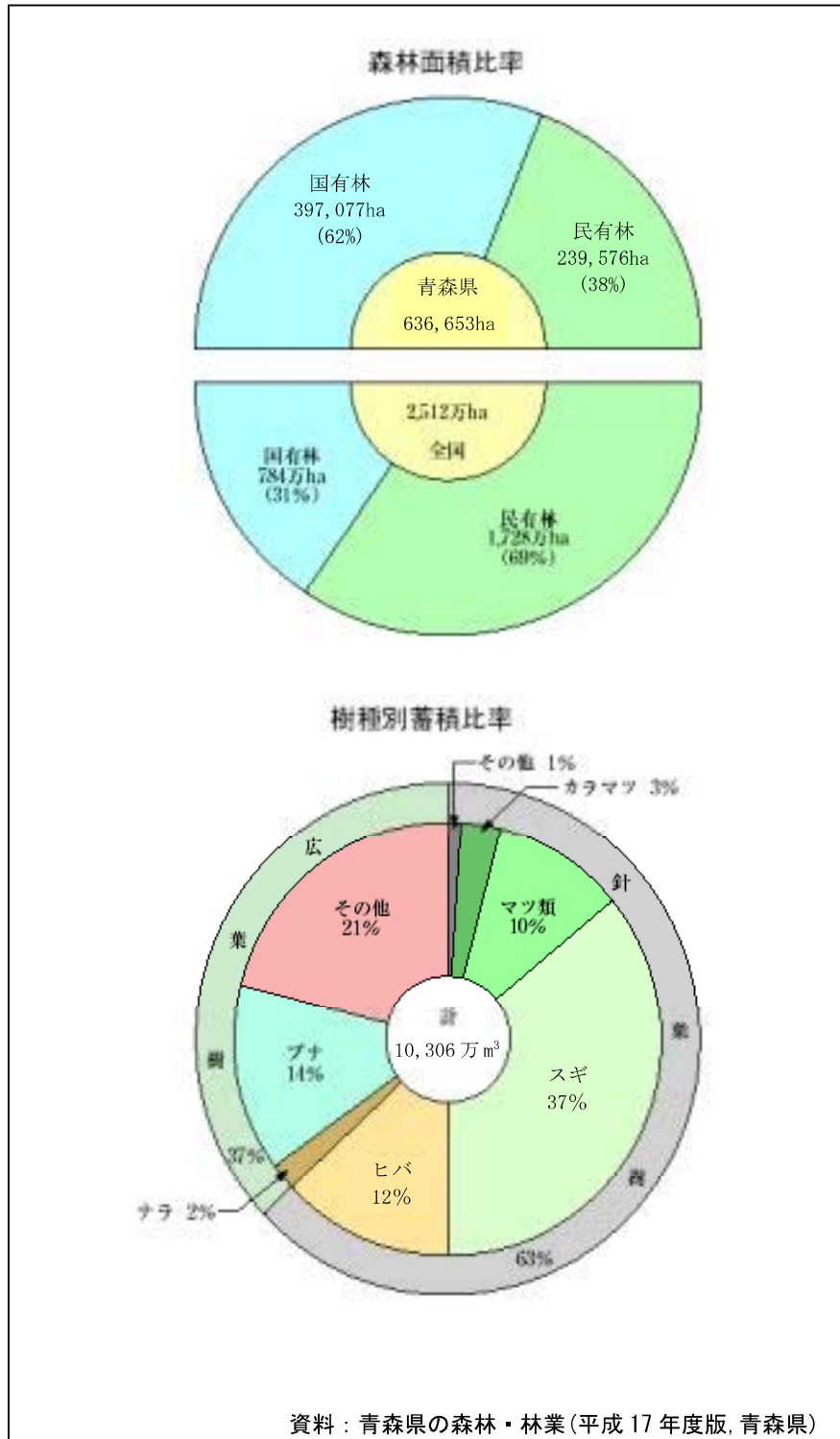


資料：園芸作物統計（平成16年）

(2) 林業

- 青森県の森林面積は、県土の66%にあたる63万6,653haで、内訳は国有林面積が62%、民有林が38%となっており、国有林比率は全国平均の31%を大幅に上回っている。
- 森林蓄積は約10,306万m³で、このうち針葉樹が全体の63%、広葉樹が37%となっている。
- 天然林のヒバ（青森ヒバなど）とブナ（白神山地の主要樹種）は国有林に多く、民有林はスギやマツ類等の人工林が多くなっている。

青森県の森林の状況



(3) 水産業

○青森県の水産業は、平成14年の海面漁業漁獲量、海面養殖業収穫量ともに全国4位であり、全国有数の水産業県となっている。

○魚種別では、スルメイカ・アカイカが全国1位、ホッケ・コンブ類・ホタテガイが全国2位となっている。

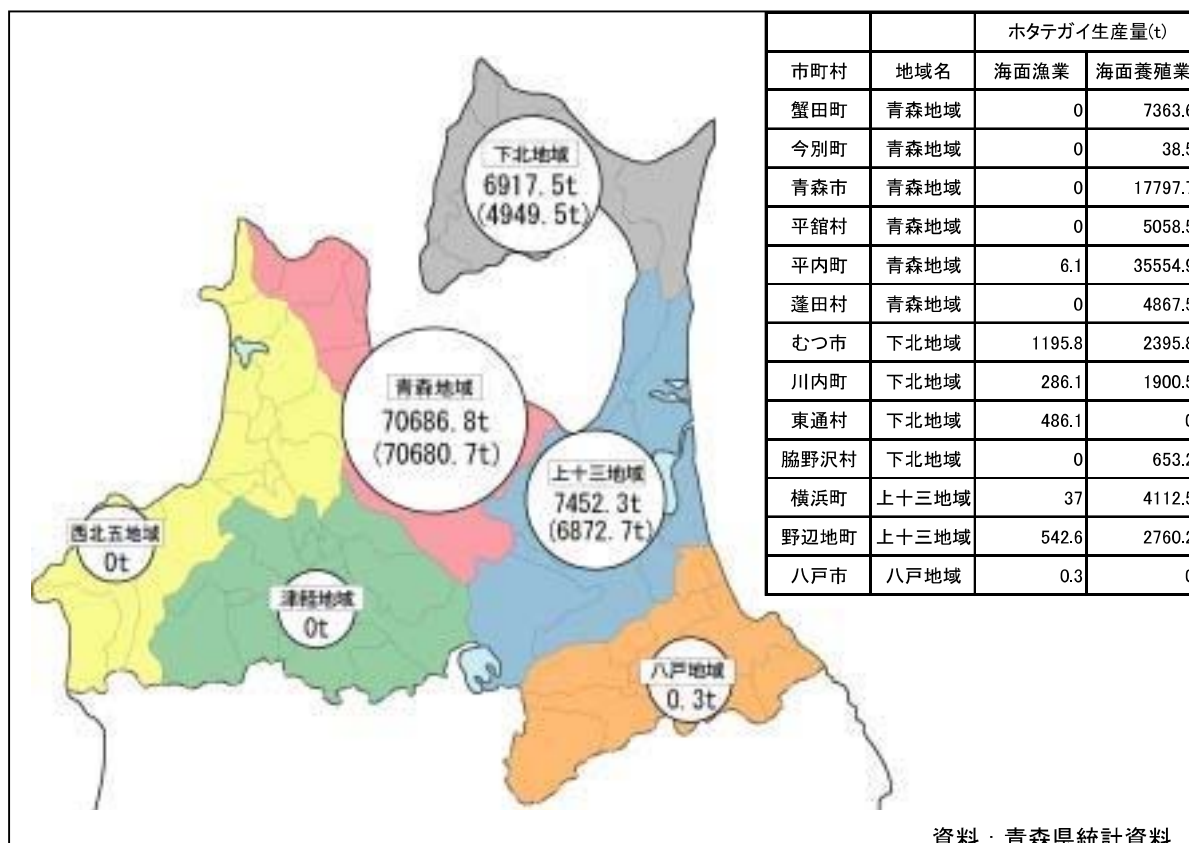
○陸奥湾沿岸地域はホタテガイ養殖の名産地となっている。

魚種別漁獲量・収穫量（平成14年）

		青森県	東北	全国	青森県 ／東北	青森県 ／全国	東北 順位	全国 順位
海面漁業生産量	マグロ類	45	738	2,818	6.1%	1.6%	4	15
	カツオ類	33	506	3,180	6.5%	1.0%	3	13
	サケ・マス類	61	405	2,364	15.1%	2.6%	3	4
	サバ類	94	360	2,795	26.1%	3.4%	3	9
	ブリ類	18	42	513	42.9%	3.5%	1	9
	ヒラメ・カレイ類	37	127	681	29.1%	5.4%	2	5
	タラ類	52	247	2,446	21.1%	2.1%	3	4
	ホッケ	34	45	1,543	75.6%	2.2%	1	2
	カニ類	10	36	359	27.8%	2.8%	2	10
	スルメイカ	772	1,122	2,604	68.8%	29.6%	1	1
	アカイカ	416	455	753	91.4%	55.2%	1	1
	タコ類	29	104	562	27.9%	5.2%	2	4
	ウニ類	9	38	126	23.7%	7.1%	2	3
コンブ類	55	70	1,007	78.6%	5.5%	1	2	
その他	400	2,724	22,288	14.7%	1.8%	—	—	
合計漁獲量	2,065	7,019	44,039	29.4%	4.7%	2	4	
海面養殖業生産量	ホタテガイ	964	1,247	2,650	77.3%	36.4%	1	2
	その他	27	1,692	10,461	1.6%	0.3%	—	—
	合計収穫量	991	2,939	13,111	33.7%	7.6%	2	4

資料：青森県ホームページ「図説農林水産業の動向」

県内地域別のホタテガイ生産量（平成15年）



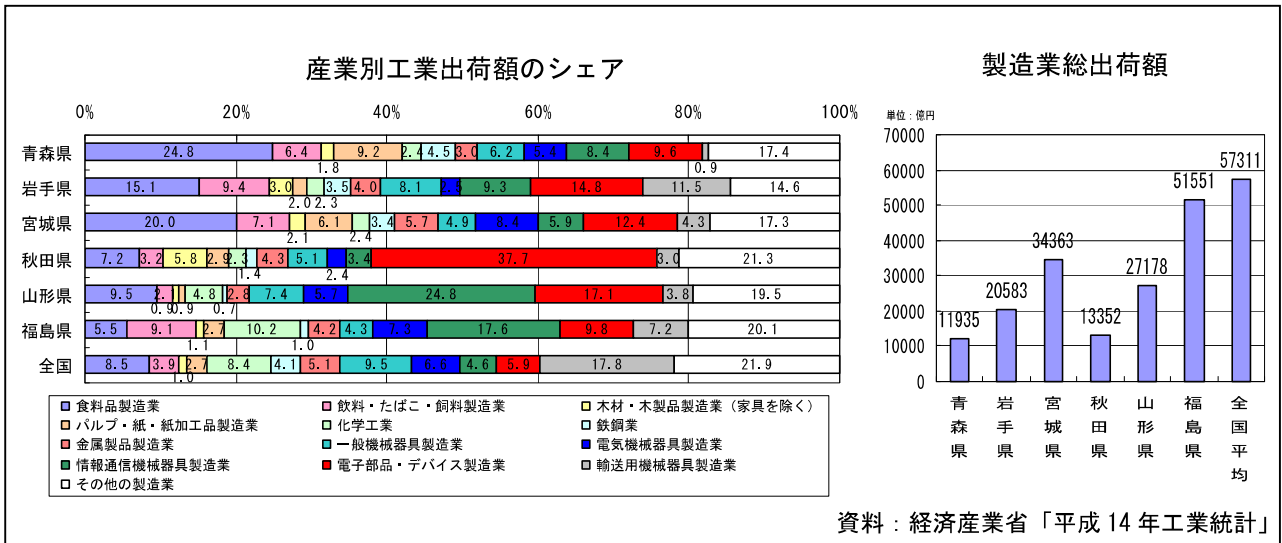
資料：青森県統計資料

(4) 工業

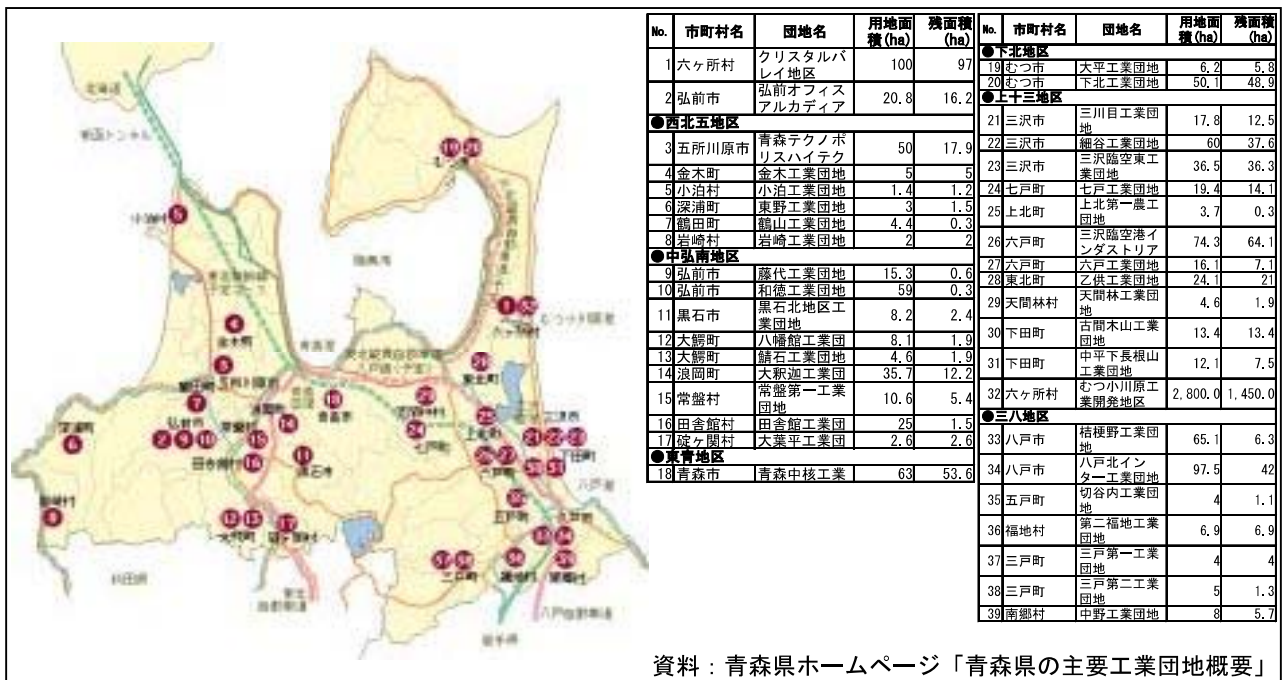
○青森県の製造業総出荷額は相対的に低いが、食料品、電子部品、パルプ・紙・紙加工品などの占める割合が高く、特に農産物を原料とした食料品加工の盛んな青森では、食料品製造業が全国平均に比べて大きな割合を占めている。

○青森県の主要工業団地の立地状況を見ると、南部地域においては「環境・エネルギー産業創造特区」に認定されている臨海部を中心に分布し、津軽地域においては「青森地域高度技術産業集積活性化計画」で高度技術産業集積を有する機能の維持・強化を図る対象地域である青森市・弘前市・黒石市・五所川原市・浪岡町などの内陸部を中心に分布している。

産業別製造品出荷額



県内主要工場等用地一覧



(5) 商業

- 青森県の商業規模は、全国の1%程度、東北地方の約12~15%となっている。
- 商業規模を小売業・卸売業別にみると、全国及び東北地方に占める割合は小売業に比べて卸売業の方が低くなっている。

小売業・卸売業年間販売額（平成14年）

	青森県	東北	全国	青森県／東北	青森県／全国
商業(小売業+卸売業)					
商店数	21,030	141,028	1,679,606	14.9%	1.3%
従業員数(人)	130,458	873,113	11,974,766	14.9%	1.1%
年間販売額(億円)	36,939	287,344	5,484,641	12.9%	0.7%
小売業					
商店数	17,293	113,511	1,300,057	15.2%	1.3%
従業員数(人)	95,861	628,766	7,972,805	15.2%	1.2%
年間販売額(億円)	15,360	100,856	1,351,093	15.2%	1.1%
卸売業					
商店数	3,737	27,517	379,549	13.6%	1.0%
従業員数(人)	34,597	244,347	4,001,961	14.2%	0.9%
年間販売額(億円)	21,579	186,488	4,133,548	11.6%	0.5%

(6) 産業関連プロジェクト

【環境・エネルギー産業創造特区】

構造改革特別区域法に基づき国に申請を行っていた「環境・エネルギー産業創造特区」計画が、2003年5月に認定された。

○計画の目標

- ・国際的なエネルギー開発・供給の拠点形成や、ゼロエミッション技術の確立を目指す先進的な取り組みを展開している潜在力を活かして、環境・エネルギー分野における実証とノウハウ蓄積、新たなビジネスや新産業の創出を図り、地域の経済活性化や雇用の創出、環境問題対策の先進地域の形成を図り、ひいては、世界に貢献する「環境・エネルギーフロンティアの形成」を実現する。

○特別区域の範囲（右図参照）

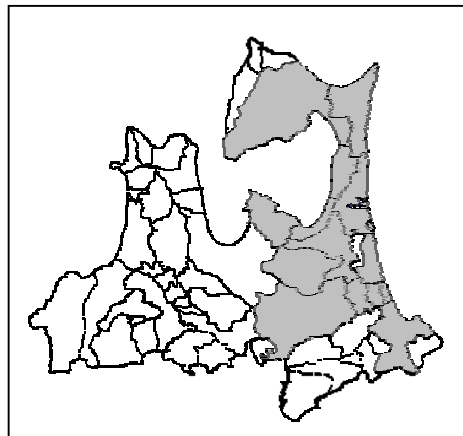
- ・むつ小川原開発地域（13市町村）及び八戸市（計14市町村）

○規制の特例措置の内容

- ・特定埋立地に係る所有権移転制限期間等短縮事業
- ・自然エネルギー発電事業
- ・般電気工作物への位置付けによる小規模ガスタービン発電設備導入事業
- ・資本関係等によらない密接な関係による電力の特定供給事業（平成17年3月全国展開）

○現在進行中のプロジェクト等

- ・青森水素エネルギー戦略
＜先駆的水素プロジェクト＞
 - ①ウェットバイオマスを活用した先駆的水素エネルギー地域ネットワーク整備術整備技術に関する調査
 - ②風力発電からの水素製造と貯蔵、供給方法の検討
 - ③二酸化炭素の排出を抑制可能なエネルギーからの水素製造と水素の活用
- ・青森県風力発電導入推進アクションプラン
- ・八戸市新エネルギー等地域集中実証研究事業



環境・エネルギー産業創造特区の範囲

【津軽・生命科学活用食料特区】（平成17年9月1日から全国展開となる）

構造改革特別区域法に基づき国に申請を行っていた「津軽・生命科学活用食糧特区計画」が、2003年4月21日に構造改革特区の全国第1号として認定された。

○特区の概要

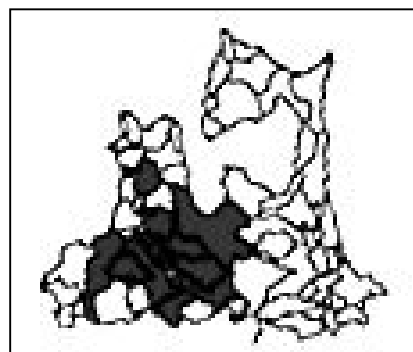
- ・弘前大学と食品産業との試験研究施設の利用を通じた機能性食品等開発での連携強化、食品産業による原材料の直接生産、都市住民の農産物生産への機会増加など、研究促進・民間活力利用・住民参加等の総合的な取り組みにより、新たな視点に立った食料生産・加工・消費構造の構築を図り、「いのちを支える健康産業の創生」と「やすらぎの農村空間づくり」を推進。

○特区の範囲

- ・青森市、弘前市、黒石市、五所川原市、鱒ヶ沢町、深浦町、岩木町、藤崎町、大鰐町、平賀町、田舎館村、碓ヶ関村、板柳町、中泊町、鶴田町

○規制の特例措置

- ・農地貸付方式による株式会社等の農業経営への参入容認
- ・市民農園の開設者の拡大
- ・農地取得後の農地の下限面積要件緩和



津軽・生命科学活用食料特区の範囲

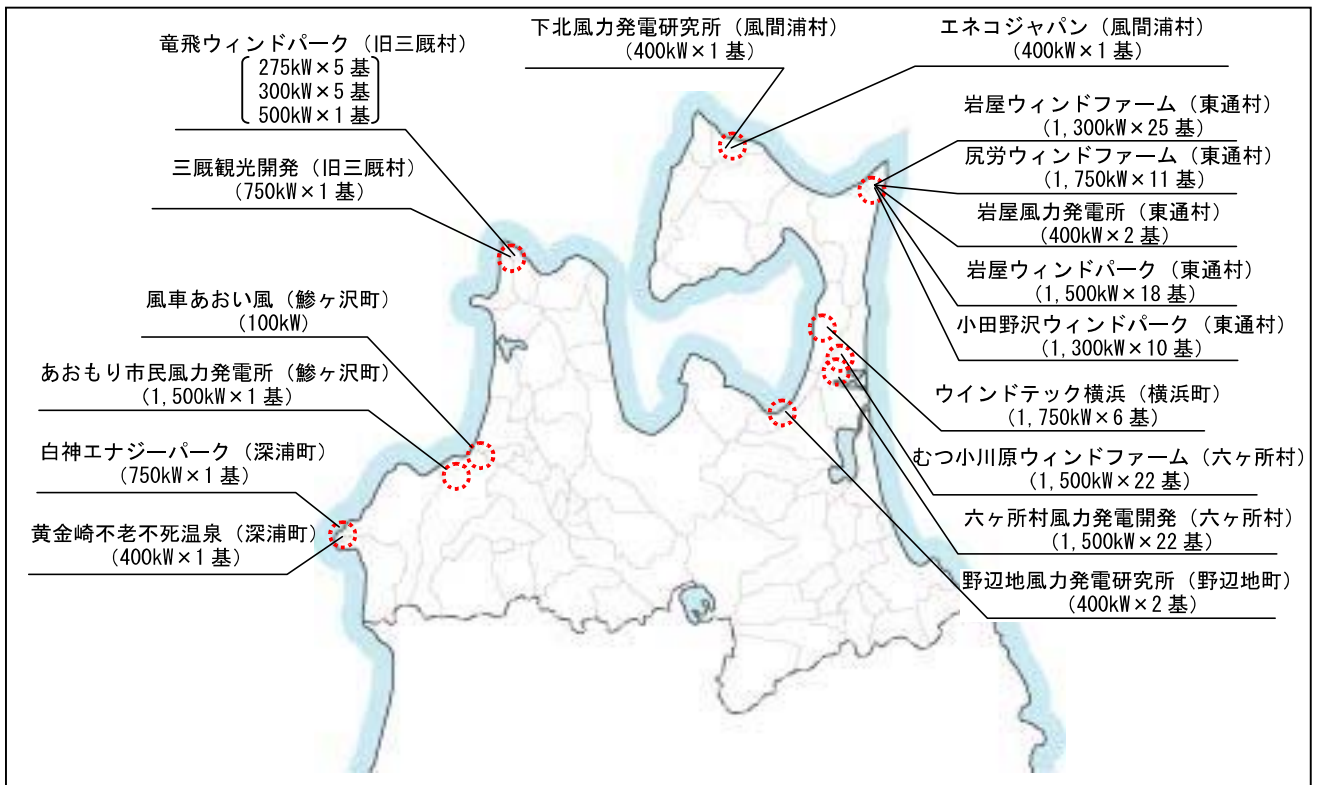
【風力発電施設の立地促進】

○わが国における風力発電導入量は、近年急速に伸びており、政府も 2002 年に、電気事業者による新エネルギー電気の利用を義務付ける「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法（RPS法）」を制定した。

○これらに加えて、立地場所の拡大を図ることにより、2010 年度のわが国における風力発電量 300 万 kW に向け、新エネルギーの更なる導入促進が課題となっている。

○なお、青森県における総発電量は 17.7 万 kW（2005 年 3 月現在・136 基）に達し、国内全体 92.7 万 kW（2005 年 3 月現在・924 基）の 19%を占めている。

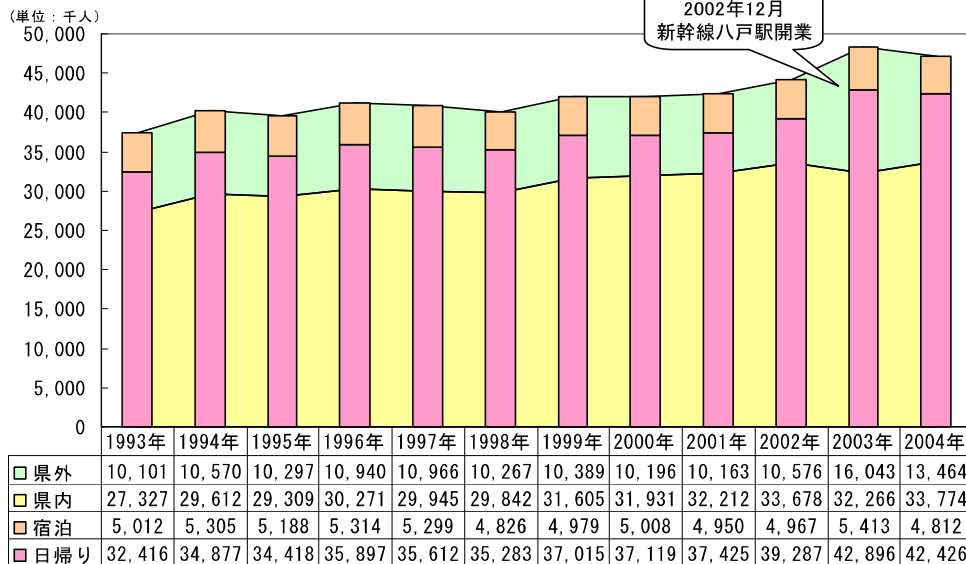
主な風力発電施設の立地状況（2005 年 3 月現在）



3. 観光動向

- 青森県は、十和田湖や奥入瀬溪流・八甲田山・岩木山・恐山、そして世界遺産に登録された白神山地など、豊かな自然環境に恵まれている。
- ねぶた祭り・八戸三社大祭などの郷土色豊かな祭りのほか、三内丸山遺跡に代表される歴史的遺産、日本一広大なリンゴ園等の数々の観光資源を有している（P28「青森県内の主要観光資源」参照）。
- 最近では、国際定期航空路線の開設をはじめとする交通アクセスの向上や、観光施設・宿泊施設等の整備が図られたことなどから、本県を訪れる観光客は順調な増加を示している。
- 2002年12月の東北新幹線盛岡・八戸間の開業により観光客が順調に増加している。
→開業前と比べ東北新幹線「はやて」の利用客数が約50%増加（資料：青森県企画政策部新幹線・交通政策課「検証！新幹線開業効果」）
- 東北新幹線八戸駅開業効果が一応落ち着いた傾向にあるものの、一部施設の入込数は増加傾向にあり、概ね開業効果維持されている。

観光入込客数の推移



資料：青森県観光統計概要

主要観光地の観光入込客数の推移

県内国立・国定公園

種別	地域	観光入込客数(人)					増減率 99年～04年	
		1999年	2000年	2001年	2002年	2003年		2004年
国立公園	十和田八幡平 (十和田地区)	2,520,000	2,470,000	2,492,000	2,706,000	3,342,000	3,149,000	25.0%
国定公園	恐山	352,000	360,000	370,000	390,000	446,000	432,000	22.7%
	業研	356,000	337,000	347,000	343,000	419,000	374,000	5.1%
	大間	202,000	203,000	223,000	218,000	260,000	220,000	8.9%
	仏ヶ浦	227,000	232,000	227,000	231,000	244,000	219,000	-3.5%
	竜飛月	395,000	428,000	405,000	409,000	379,000	357,000	-9.6%
	権現崎 十三湖 屏風山	653,000	676,000	710,000	628,000	707,000	649,000	-0.6%
	深浦 藤ヶ沢 十二湖	1,087,000	1,117,000	1,125,000	1,170,000	1,236,000	1,219,000	12.1%
	岩木山	811,000	807,000	930,000	880,000	1,013,000	940,000	15.9%

県内主要観光施設 (2003年観光入込客数が30万人以上の施設)

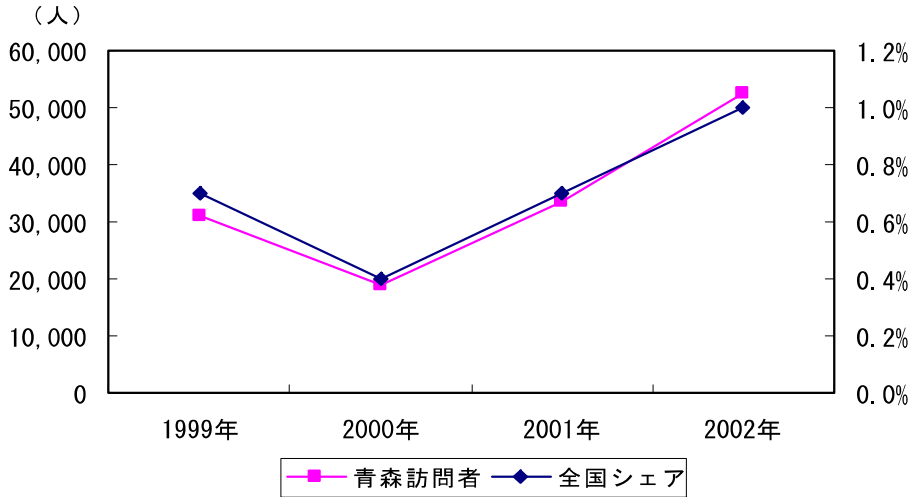
名称	市町村	観光入込客数(人)				増減率 01年～04年
		2001年	2002年	2003年	2004年	
青森県観光物産館 アスラム	青森市	749,000	812,000	839,600	709,200	-5.3%
三内丸山遺跡	青森市	286,550	243,929	489,345	401,806	40.2%
青森県営浅虫水族館	青森市	299,050	340,460	373,347	359,382	20.2%
津軽藩ねぶた村	弘前市	963,150	970,500	1,175,000	-	22.0%
弘前市立観光館	弘前市	397,632	467,503	536,507	-	34.9%
弘前城史料館	弘前市	139,462	109,829	312,947	-	124.4%
八食センター	八戸市	-	921,099	1,559,205	-	69.3%
こどもの国	八戸市	565,804	604,166	561,544	-	-0.8%
古牧温泉洗沢公園	三沢市	389,194	385,687	513,431	566,640	45.6%
十二湖公園	岩崎村	421,586	381,375	400,150	451,484	7.1%
石ヶ戸休憩所	十和田湖町	-	448,885	500,641	468,886	4.5%

※は、数値の表示された期間における増減率

資料：平成15年青森県観光統計概要

- 青森県を訪れた外国人客数（推計値）は、近年増加傾向あり、全国に占めるシェアも同様の傾向を示している。
- なかでも、アジア地域からの観光客が全体の3割以上と多く、特に、台湾からの訪問客が多い。

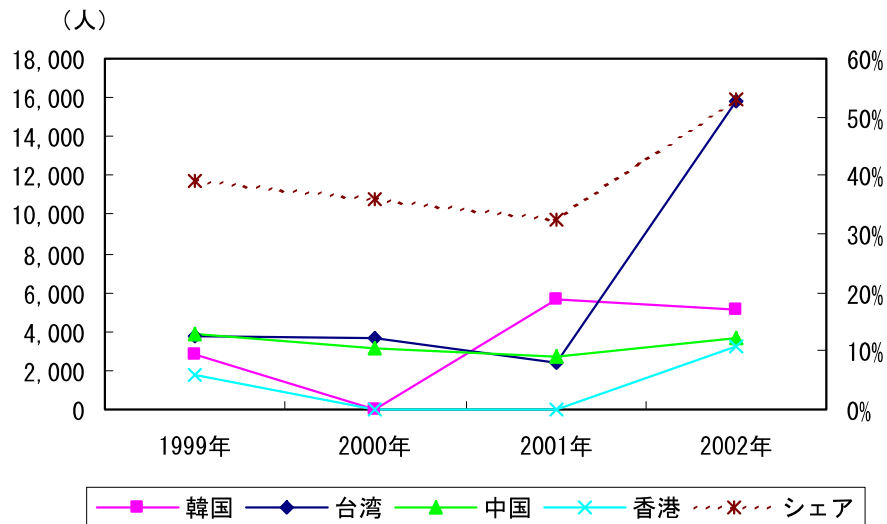
青森県を訪れた外客数（推計値）の推移



※訪日外国人客へのアンケート（複数回答）による都道府県別訪問率と訪日外客数からの推計値

資料：財団法人 国際観光振興機構・報道資料、同「2003—2004 訪日外国人旅行者調査」

東アジア各国から青森県を訪れた外客数（推計値）の推移

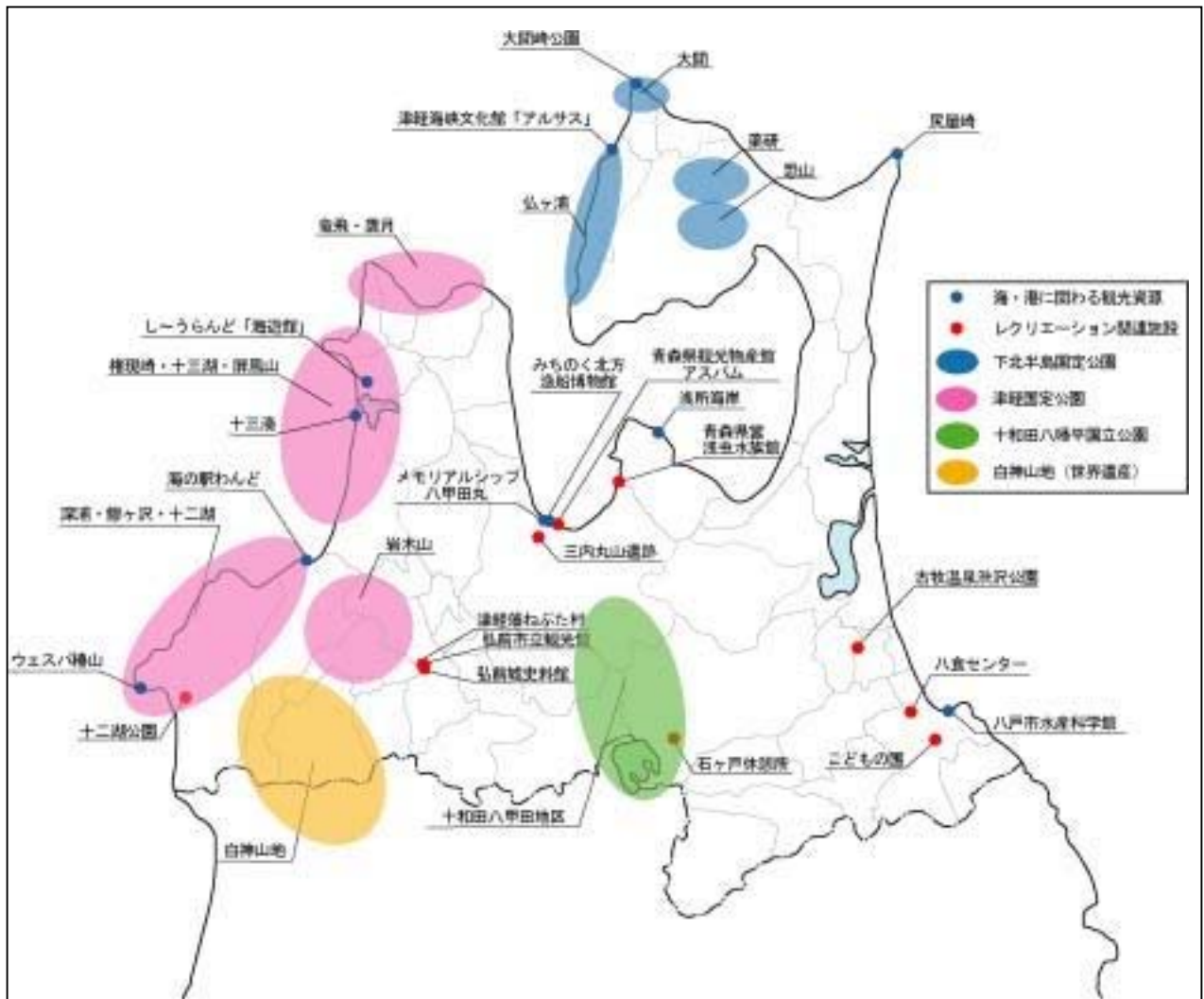


※ 訪日外国人客へのアンケート（複数回答）による都道府県別訪問率と訪日外客数からの推計値。

※※「シェア」とは、青森県を訪れた全外客数に占める韓国・台湾・中国・香港からの客数の合計が占める割合を指す。

資料：財団法人 国際観光振興機構・報道資料、同「2003—2004 訪日外国人旅行者調査」

青森県内の主要観光資源



※市町村界は平成 18 年 1 月 1 日現在

4. 交通基盤

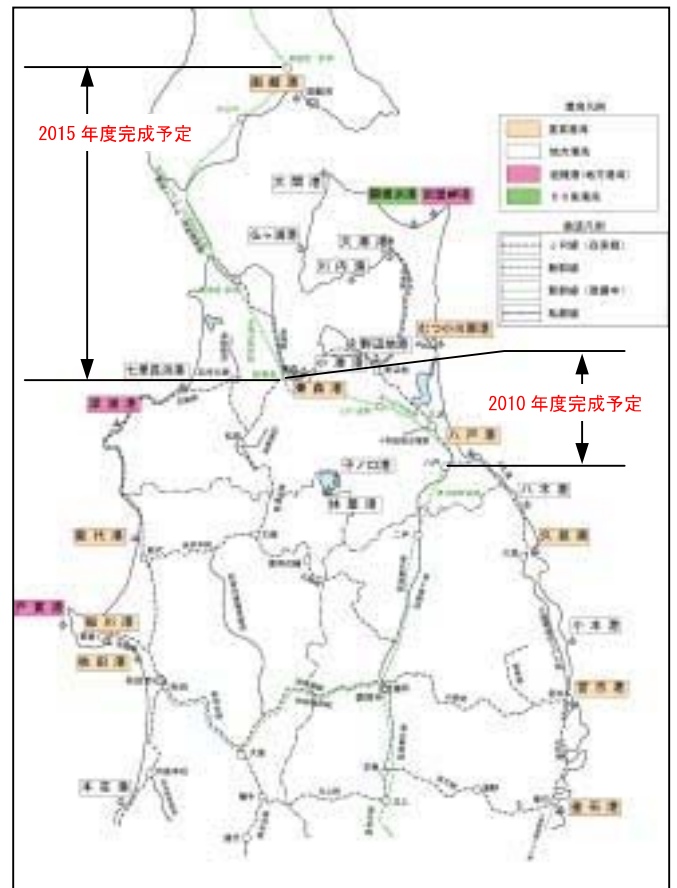
○昭和 29 年に策定された第 1 次道路整備五箇年計画以来、現在に至るまで幹線道路の整備は着実に進められ、2003 年度末における高規格道路の共用延長は 8,540km に至っている。青森県においても、青森・弘前と首都圏とを結ぶ東北縦貫自動車道弘前線と、八戸と首都圏とを結ぶ八戸線の二つの高規格幹線道路が整備されており、首都圏まで約 8 時間で結ばれている。

○新幹線においては、工事実施計画認可申請中のものまで含めると、将来的には札幌から鹿児島まで開通する見込みとなっている。青森県においても、東北新幹線「八戸～新青森間」が 2010 年度に、北海道新幹線「新青森～新函館間」が 2015 年度にそれぞれ完成予定となっている。このように、全国を結ぶ国内交通体系は大きく変わりつつある。

東北地方におけ道路及び鉄道・新幹線の整備状況



道路



鉄道・新幹線

5. 防災

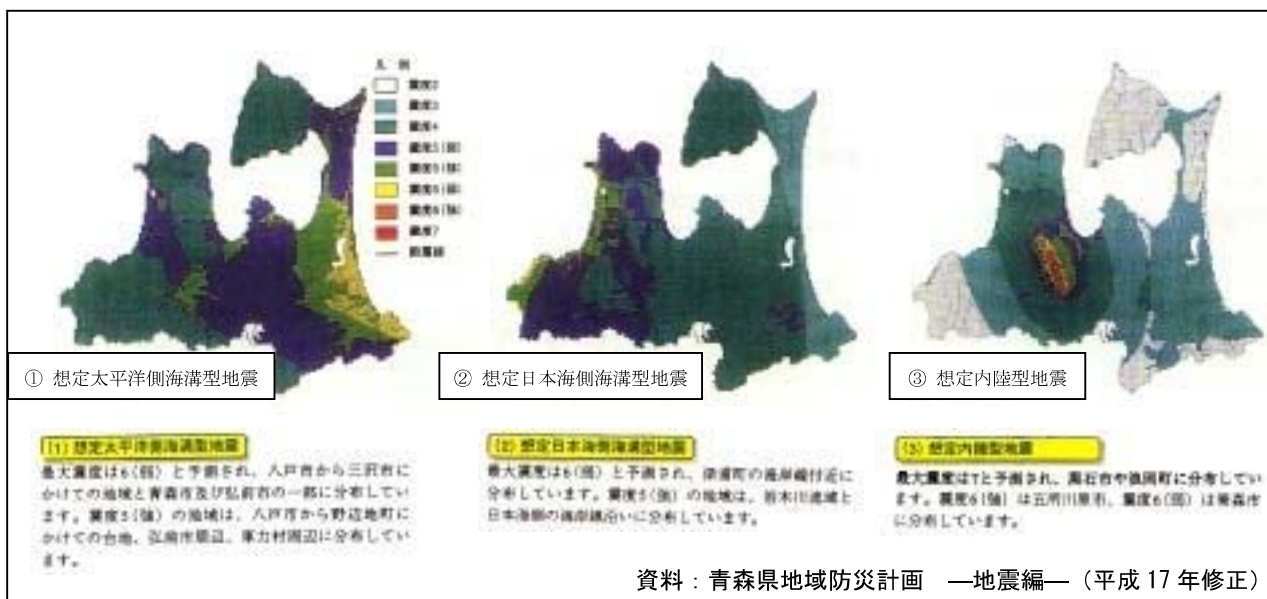
- 青森県では、過去、地震・大雨・豪雪等による被害を受け、多くの人命や財産が失われている。
- 青森県の地域防災計画では、大規模地震について3ケースを想定している。人的被害は想定太平洋側海溝型地震が最も多く、その数は13万人を超える見通しである。

青森県における自然災害の発生状況

発生年月日	災害の種類	死者・ 行方不明者数	重軽傷者数	被害額（億円）	備考
1968年5月16日	地震	48	671	470	十勝沖地震
1975年8月5日～7日	大雨	22	46	121	
1975年8月20日	大雨	1	25	531	
1977年8月5日	大雨	11	30	467	
1981年8月21日～23日	大雨・暴風	2	8	492	
1982年8月20日～21日	大雨	-	-	165	
1982年9月10日～13日	大雨・暴風	1	-	277	
1983年5月26日	地震	17	25	518	日本海中部地震
1985年1月～3月	豪雪	8	61	89	
1985年9月1日	大雨・暴風	-	-	202	
1986年1月～3月	豪雪	5	81	101	
1990年9月17日～20日	大雨・暴風	-	-	154	
1990年10月26日～27日	大雨・暴風	-	-	200	
1991年9月28日	暴風	9	255	1129	
1994年12月28日	地震	3	783	755	三陸はるか沖地震
1999年10月27日～28日	大雨・暴風	2	2	342	
2001年1月～3月	豪雪	10	55	137	

資料：青森県総務部防災消防課青森県防災ホームページ

震度予測結果



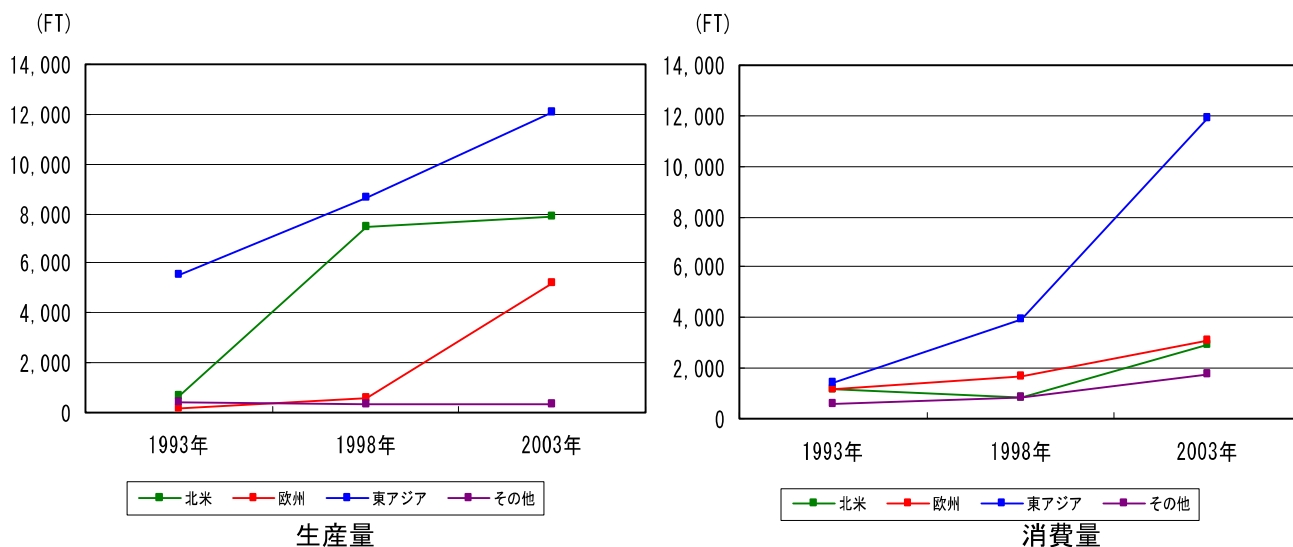
資料：青森県地域防災計画 —地震編—（平成17年修正）

6. 国際化社会における青森県の動向

(1) 青森県の貿易概況

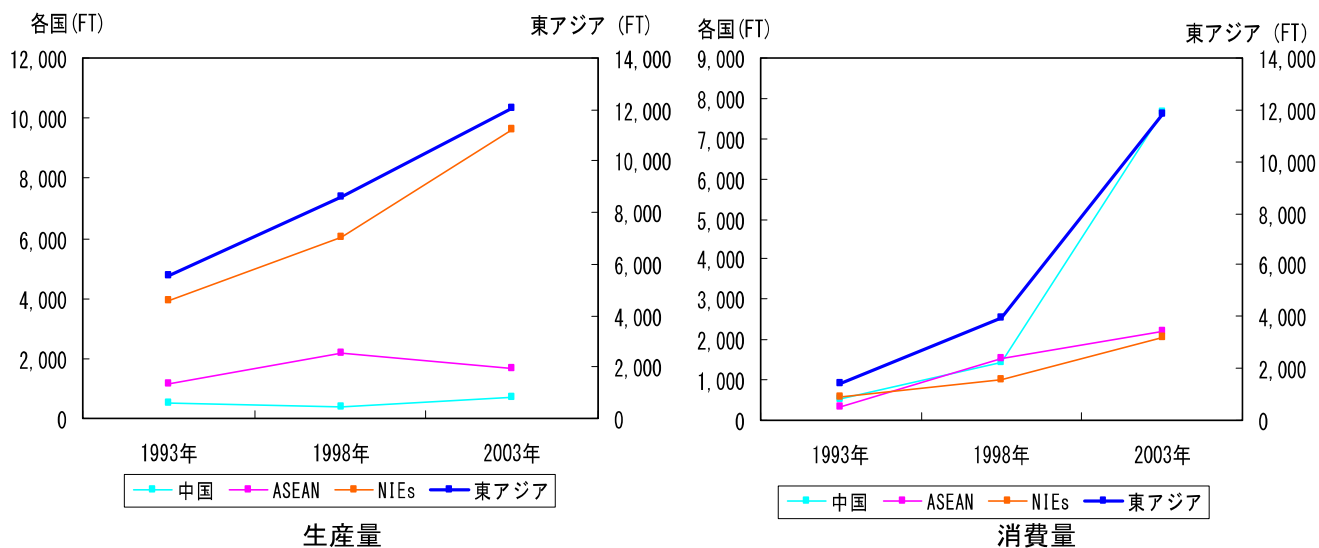
- コンテナ流動調査から青森県で生産・消費されたコンテナ量の傾向を見てみると、我が国の貿易額と同様に、生産量・消費量ともに東アジア地域のコンテナ量が最も高く推移している。
- 東アジア地域を国別に見てみると、生産量では NIEs 各国に向けたコンテナ量が最も高く推移し、消費量については中国からのコンテナ量が最も高く推移している。

青森県で生産・消費されたコンテナの地域別推移



資料：全国輸出入コンテナ流動調査

青森県で生産・消費されたコンテナの東アジア国別推移及び東アジア地域コンテナ量の推移



資料：全国輸出入コンテナ流動調査

※全国輸出入コンテナ流動調査とは、毎回10月の1ヶ月間におけるコンテナの流動について調査（コンテナ量を生産地、消費地、取扱港湾、相手国、品目別に集計）したものである。よって、本調査より得られたコンテナ量は調査期間中の合計値である。

(2) 青森県企業の海外への進出状況

○青森県に本社を置く企業のうち、現在 8 企業が海外に進出しており、現地法人数は 14 社にのぼる。そのうち、アジア地域に 10 社（全体の約 7 割）、中国には 6 社（全体の約 4 割）であり、アジア、特に中国への進出が多くなっている。

青森県企業の海外への進出状況

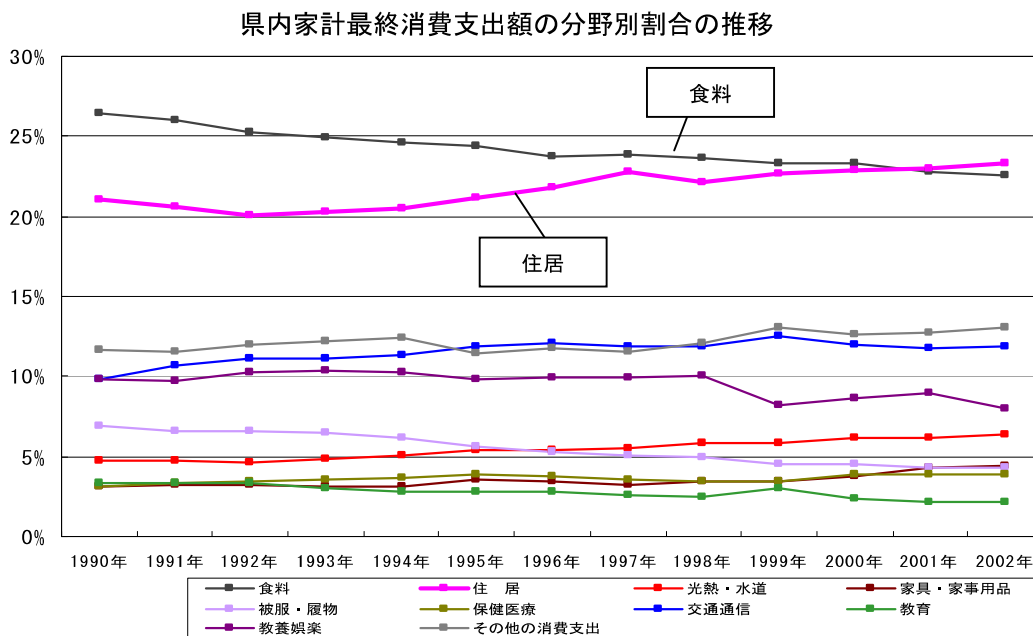
会社名	進出国	進出時期及び形態	現地法人名	業種	生産規模等
アンデス電気（株） 八戸市市川町長七谷地 2-672 TEL:0178-20-2811	中国 （香港）	2003年3月 合弁（19%出資）	VSA香港有限公司 （41st.Floor Jardine House,1 Connaught Place H.K.）	プリント基盤の実 装・組立	従業員数： （うち日本人2人）
	フィリピン （ラグナ州）	1996年9月 合弁（50%出資）	アンデス・アイオニクス INC	コンピュータ用基 板製造	従業員数：875人 （うち日本人8人）
大泉開発（株） 青森市浪館前田4-10-25 TEL:0178-781-6111	ベトナム		c/o Bish Lien Lacquer Ware Shop(125 Dong Khoi Street, District 1, Ho Chi Minh, Vietnam)		
	バンコク		Taisen Trading Bankok Co.Ltd(Villa California 165/1510, Bangkadi, Tiwanon Road, Pathum Thani 12000, Thailand	建設コンサルタン ト	
三協フード工業（株） 八戸市市川町下揚45-84 TEL:0178-50-1070	中国	1994年9月 合弁（50%出資）	天津三協食品有限公司	白身フライの生 産・販売	従業員数：150人 （うち日本人1人）
武輪水産（株） 八戸市鮫町下手洗森32-1 TEL:0178-33-0121	中国	2002年4月	駐在事務所 （中国福建省福州市鼓屏路 139号黄金大厦5F-3）	中国産の原材料 （冷凍魚）の調 達、委任加工先の 管理	従業員数：1人
並木精密宝石（株）青森 黒石工場 黒石市下目小屋敷添5-1 TEL:0178-774-1130	タイ	1993年4月 （100%出資）	Namiki Precision(THAILAND)Co.Lt d （タイ国チェンマイ地区）	小型モータ、医療 器部品製造	従業員数：3,000人 （うち日本人40 人）
(株)みちのく銀行 青森市勝田1-3-1 TEL:0178-774-1130	中国 （香港）	1993年9月 （100%出資）	北日本財務（香港）有限公 司 （Suite 1918,Hutchison House 10 Harcourt Road, Central, Hongkong）	金融	従業員数：4人 （うち日本人2人）
	中国 （武漢）		みちのく銀行武漢駐在員事 務所	金融	
	ロシア （モスクワ）	1999年7月 （100%出資）	みちのく銀行（モスクワ） （37 Bolshaya Ordynka Moscow, 109017 Russian Federation）	金融	従業員数：21人 （うち日本人3人）
	ロシア （ユジノサハ リンスク）	2002年8月	みちのく銀行（モスクワ） ユジノサハリンスク支店 （Michinoku Sakhalin Building 1st floor, Lenina St. 234, Yuzhno- Sahalinsk, 693000 Russian Federation）	金融	
	ロシア （ハバロフス ク）	2003年7月	みちのく銀行（モスクワ） ハバロフスク支店 （Business Center 《Parus》5,Shevchenko street, Khabarovsk, 680000 Russian Federation）	金融	
桃川（株） 上北郡百石町上明堂112 TEL:0178-52-2241	米国	合弁（73%出資）	Sake One （820 Elms Forestgrove OR, USA）	清酒製造販売	従業員数：12人 （うち日本人1人）
ラグノオささき 弘前市百石町9 TEL:0172-35-0353	中国	1994年10月 （100%出資）	大連愛味思食品有限公司 （中国大連経済開発区海拉 雨路8号）	食品加工	従業員数：20人 （うち日本人1人）

資料：ジェトロ青森貿易情報センター、県国際課

7. 生活の向上や環境保全への県民意識の転換

(1) 家計における消費分野の変化

○青森県における家計消費分野の変化について見ると、食料関係が減少傾向にあり、住居関係が増加傾向と、全国と同様の状況にある。

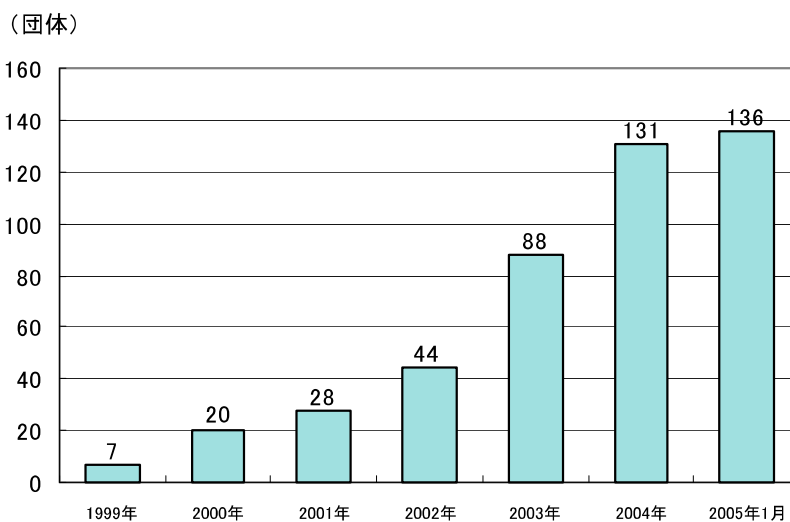


資料：青森県「県民経済計算年報」

(2) NPO 数の推移

○青森県内の NPO 数は著しい増加傾向にあり、その数は 1999 年から 2004 年までの 5 年間で約 19 倍となっている。このことから、青森県においても市民活動が活発化しつつあることが分かる。

青森県における NPO 数の推移



資料：内閣府ホームページ

(3) 環境分野における企業動向

○青森県では、あおもリエコタウンプランにより、以下の企業がリサイクル関連産業で事業を展開している。

【廃プラ等 ASR（自動スレッダーダスト）リサイクル事業】

事業主体： 東北東京鐵鋼株式会社
廃棄物の種類： 廃自動車等 ASR（120t／日）
総事業費： 35 億円

【焼却灰・ホタテ貝殻リサイクル事業】

事業主体： 太平洋金属株式会社
廃棄物の種類： 一般焼却灰（42.5 t／日）、ホタテ貝（7.5 t／日）
総事業費： 5.3 億円

【飛灰リサイクル事業】

事業主体： 八戸製錬株式会社
廃棄物の種類： 飛灰（30t／日）
総事業費： 0.7 億円

資料：青森県「環境・エネルギー産業創造特別区域計画 あおもリエコタウンプラン」

あおもリエコタウンプラン以外での企業の取り組み

【溶解飛灰リサイクル事業】

事業主体： 三井金属鉱業株式会社、太平洋金属株式会社
総事業費： 24 億円

※2006年4月に事業開始予定

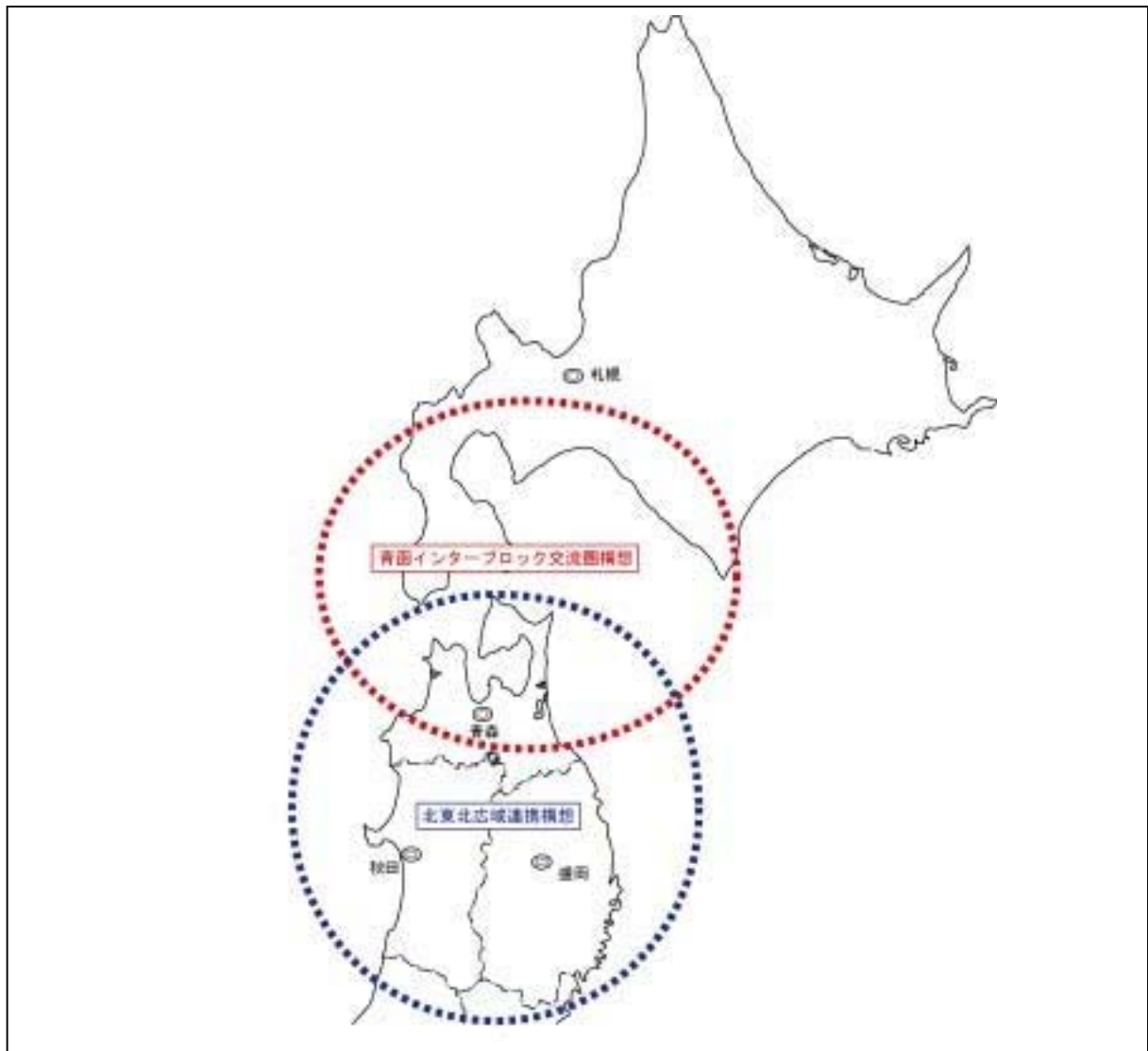
資料：平成17年6月18日付けデーリー東北

8. 北東北・北海道における広域連携

○北東北及び北海道・道南地域において、現在、以下のような広域交流圏構想が策定されている。

青函インターブロック 交流圏構想	◇1989年6月：「青函インターブロック交流圏計画」を策定 ◇2001年10月：「青函圏交流・連携プラン」（新計画）を策定
○北海道道南及び青森県を主範囲とした圏域が、東京～仙台～札幌を結ぶ国土軸形成のため、北海道東北ブロックの結節点としての機能を果たし、札幌、仙台に次ぐ第三の経済文化圏の形成を図る事を目的とした「青函インターブロック交流圏計画」を、交流だけでなく連携という視点を加え改訂した計画。 ○実現にあたっては、行政はもとより、圏域住民、NPOを含めた各種団体、企業等の多様な主体による積極的な参加と協力により推進していく方針。	
北東北広域連携構想	◇1998年5月：青森県、岩手県、秋田県の3県による推進会議が設立 ◇1999年10月：「第3回北東北知事サミット」にて公表 ◇2000年2月：当構想の推進主体として推進協議会が設立
○基本目標：めぐみめぐる北東北～人と自然との共生をめざして～ ○基本姿勢：ギブ・アンド・ギブ ○広域連携のあり方：パートナーシップとネットワーク ○達成すべき社会像：多自然共生社会・持続発展共有社会・生活美共創社会の創出 ○3県全域が「元気ある」地域づくり促進を図るため、県境、市町村界が障壁とならない環境づくり、フルセット主義からの脱却、円滑な交流促進のための新しいしくみづくりを目指す。 ○県、市町村、企業、NPO、住民等が連携する全ての主体の「ゆるやかな連携」を目指す。	
資料：(社)東北経済連合会「東北の概要 2001」 新青函インターブロック交流圏構想ホームページ	

北東北・北海道における広域交流圏構想



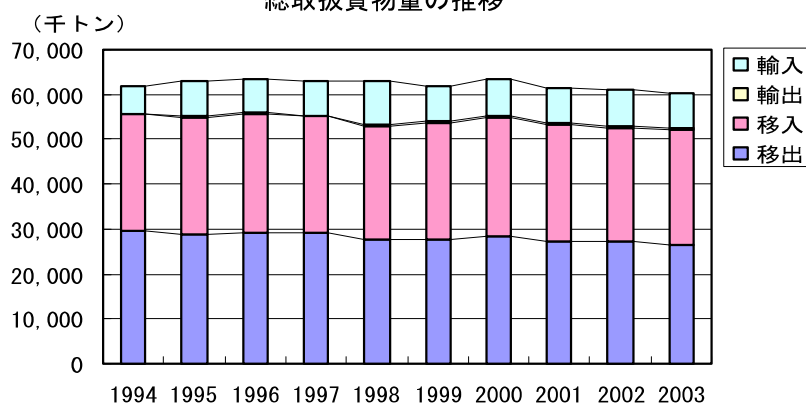
Ⅲ章 青森県港湾の概況

1. 取扱貨物量

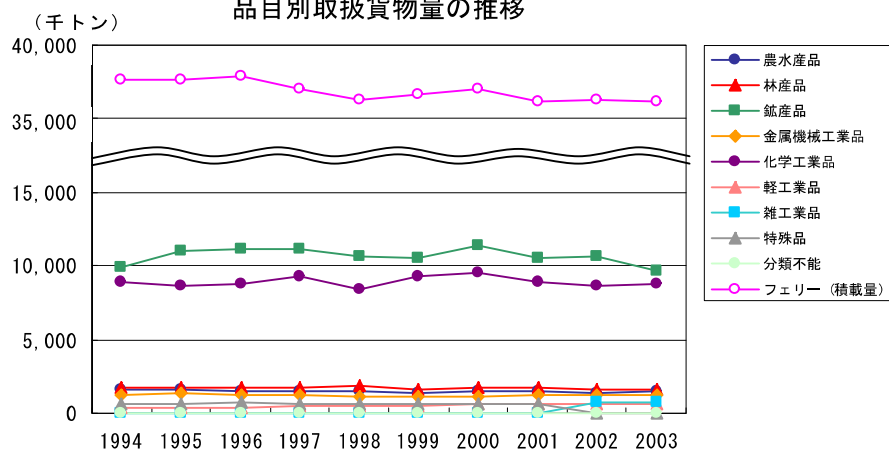
(1) 青森県港湾の総取扱貨物量

○青森県内港湾の総取扱貨物量は、1994年から2003年までの10年間で概ね横ばい傾向である。
 ○品目別取扱貨物量は、フェリー貨物が3,500万トン強と最も多く、次いで金属鉱や石灰岩などの鉱産品や化学製品の約1,000万トンとなっており、いずれの品目も、概ね横ばい傾向である。
 ○取扱貨物量を港湾別にみると、八戸港が最も多く、次いで青森港、尻屋岬港となっている。

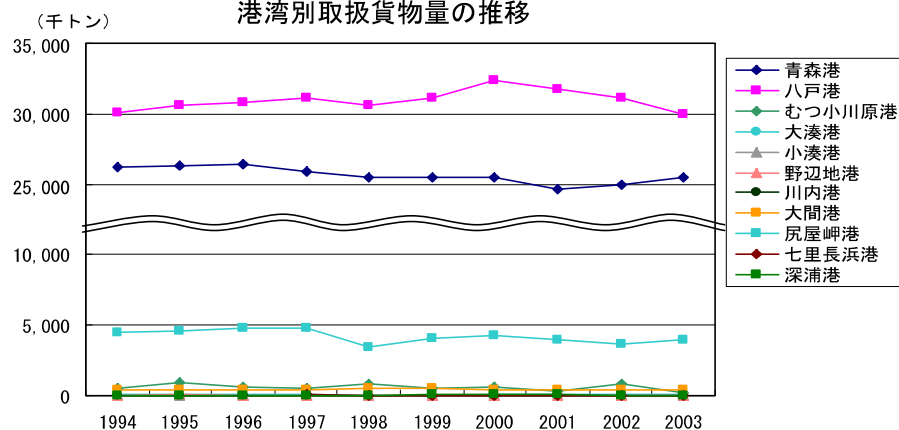
総取扱貨物量の推移



品目別取扱貨物量の推移



港湾別取扱貨物量の推移

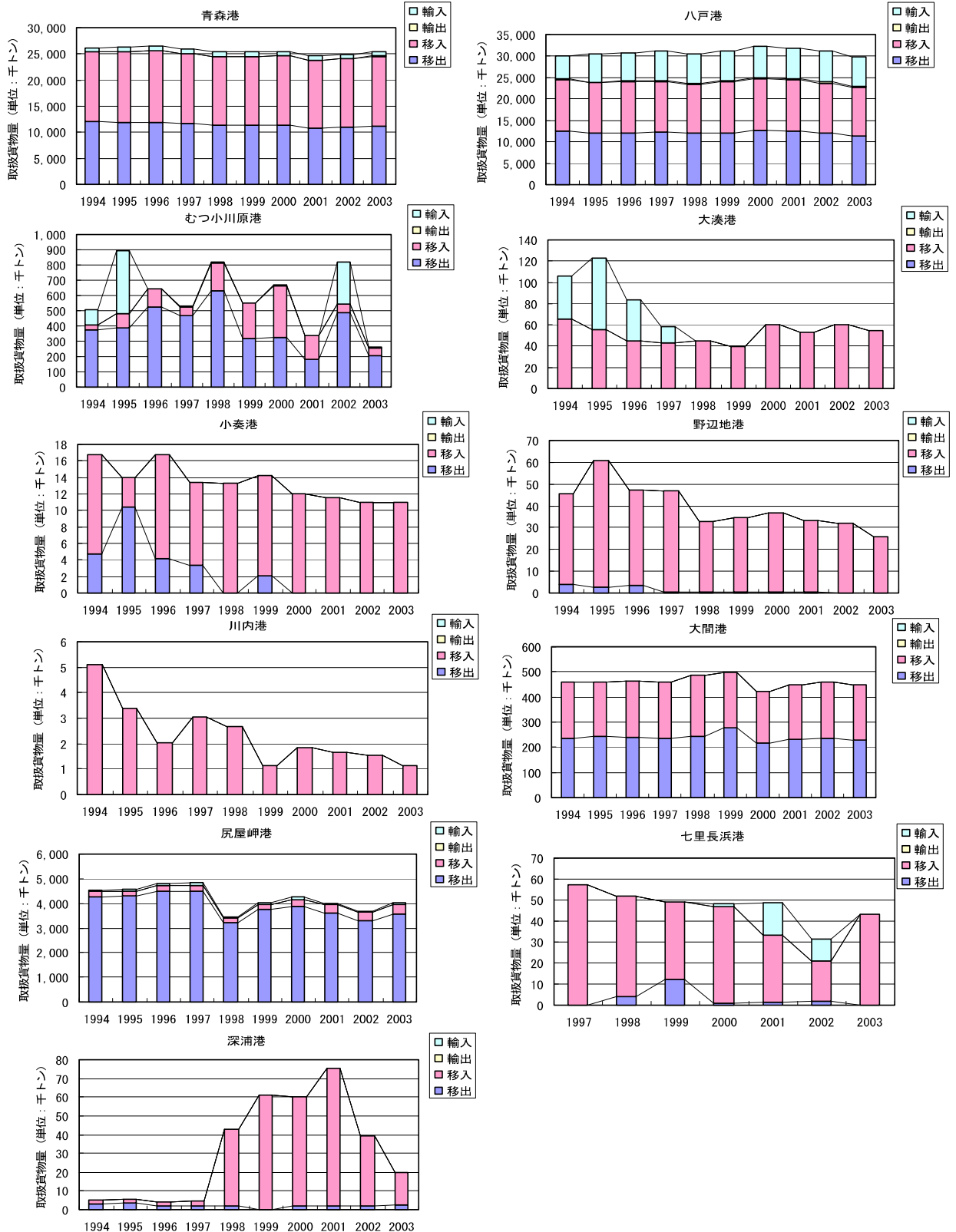


資料：青森県港湾統計

(2) 港湾別の取扱貨物量

○外買取扱貨物量をみると、コンテナ貨物取扱港である八戸港が最も多く、次いで青森港となっており、その他、尻屋岬港などでも外貿貨物を取り扱っている。

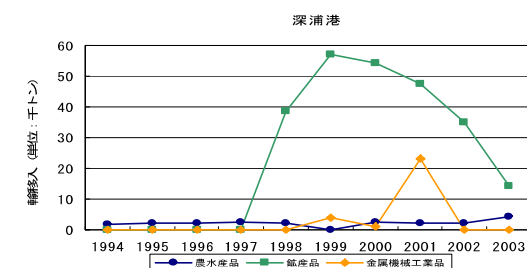
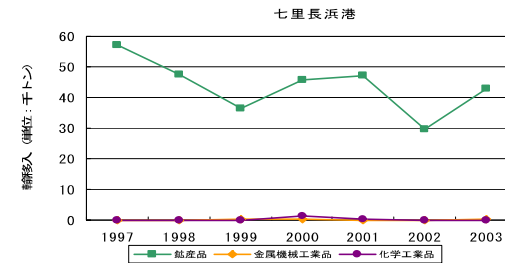
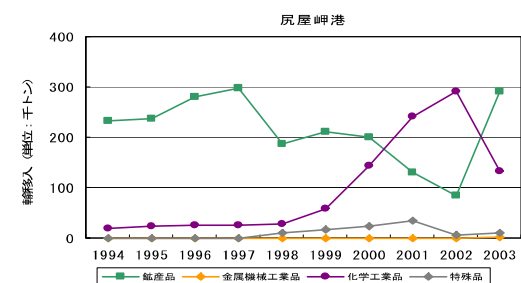
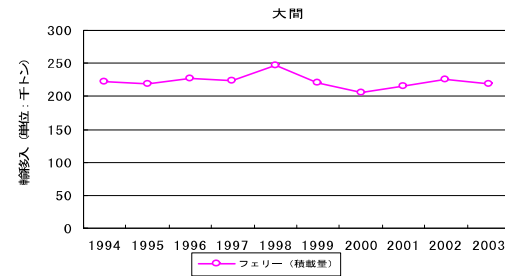
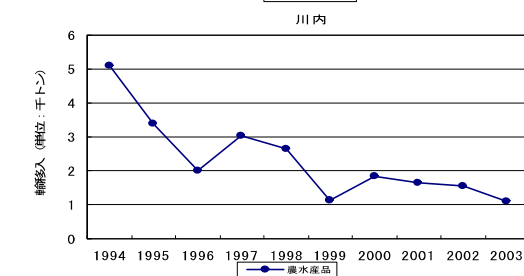
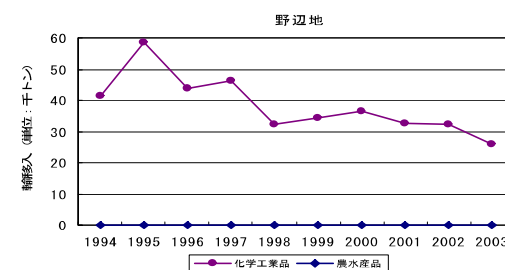
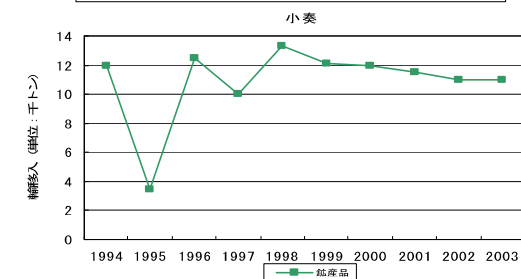
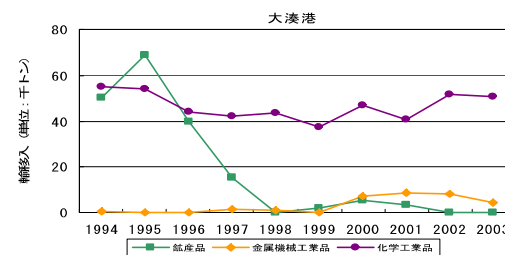
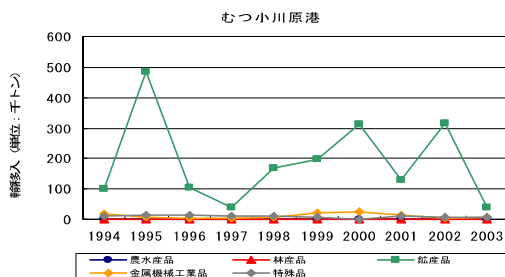
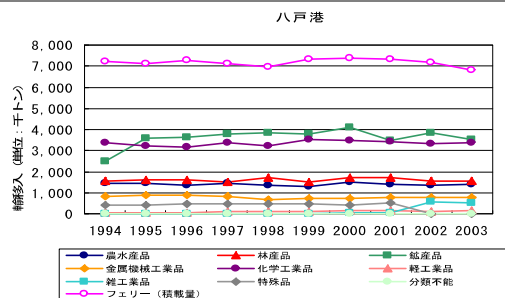
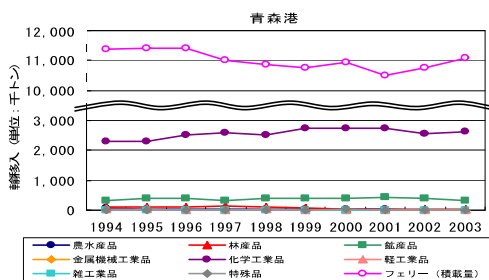
○内貿貨物取扱量をみると、青森港が最も多く、次いで八戸港、尻屋岬港となっている。



資料：青森県港湾統計

(3) 港湾別品目別の取扱貨物量（輸移入）

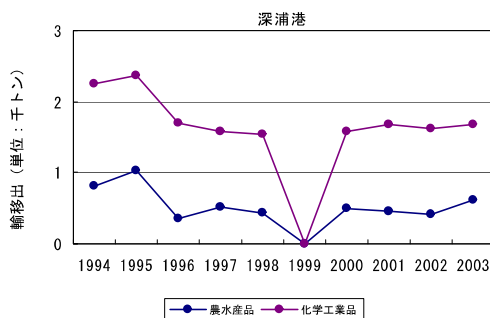
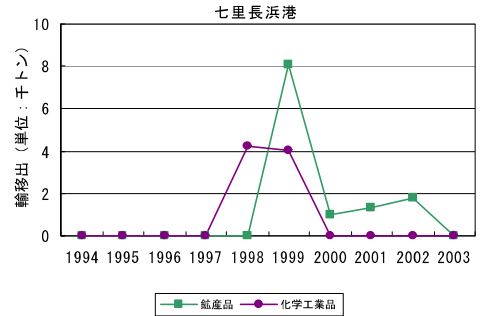
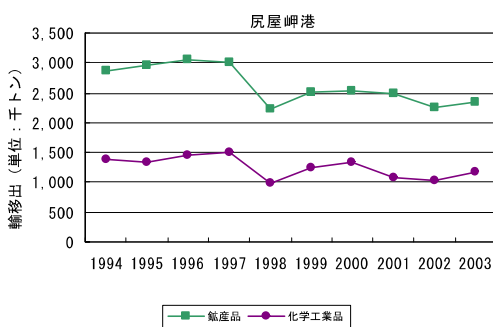
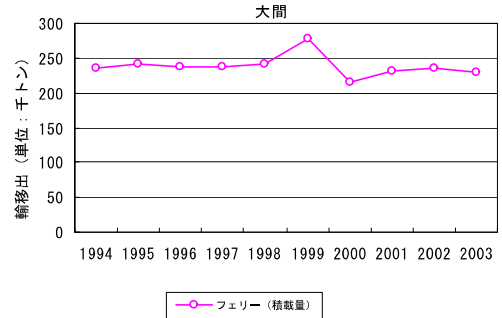
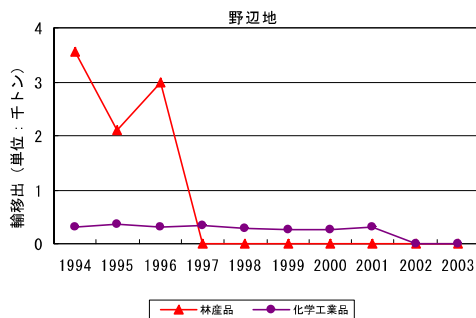
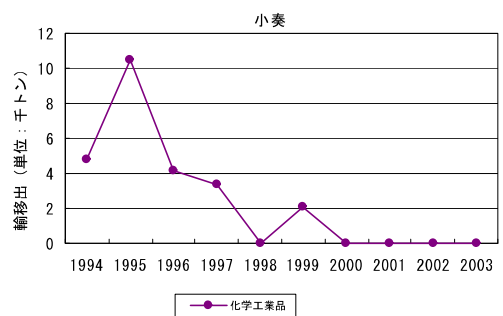
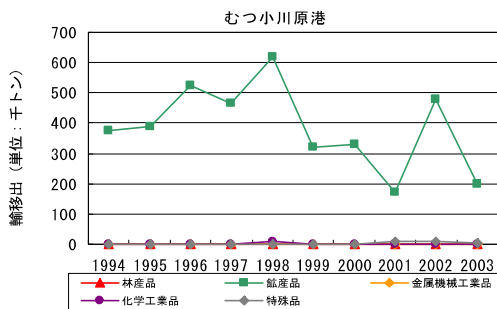
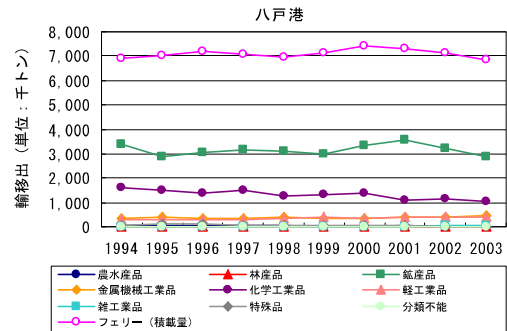
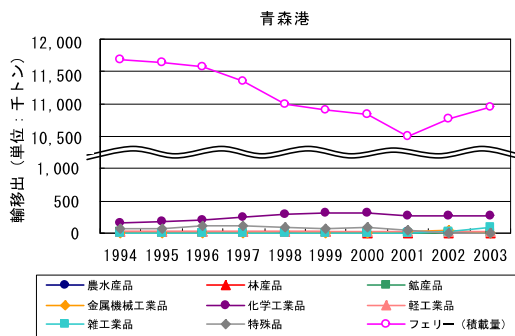
○輸移入品目は、青森港・大湊港は化学工業品、八戸港・尻屋岬港は鉱産品・化学工業品、その他港は鉱産品が中心である。



資料：青森県港湾統計

(4) 港湾別品目別の取扱貨物量（輸移出）

○輸移出品目は、青森港・深浦港は化学工業品、その他の港は鉱産品が中心である。



資料：青森県港湾統計

2. 外貿コンテナ

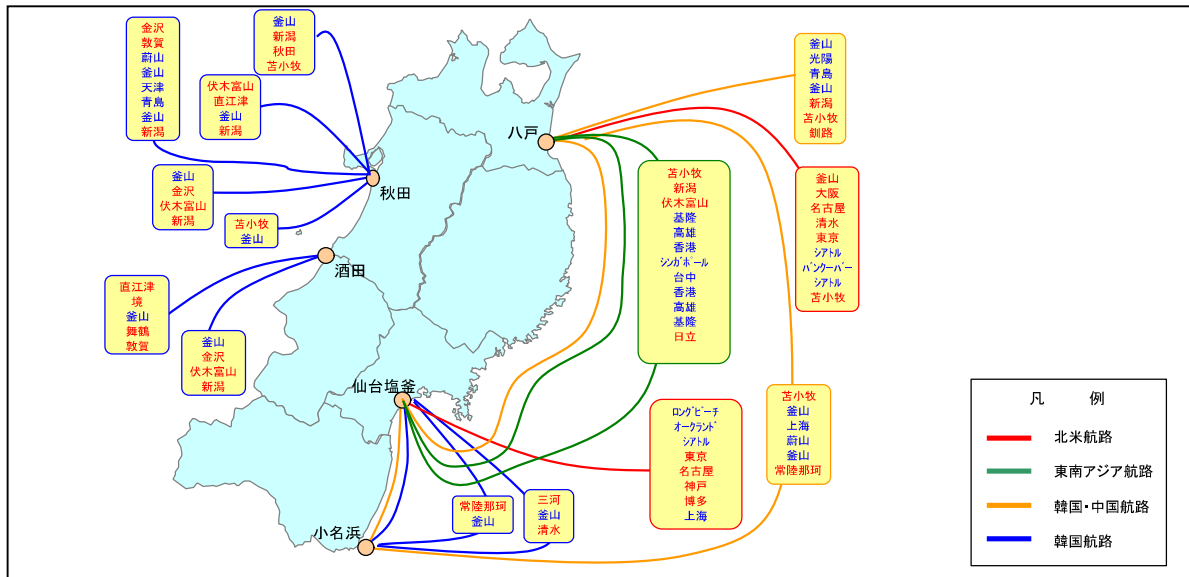
(1) 定期航路及び取扱量

○東北地方における外貿コンテナ取扱港湾は、小名浜港、仙台塩釜港、八戸港、秋田港、酒田港の5港であり、八戸港には3航路（東南アジア、韓国・中国、北米）の外貿コンテナ定期航路が就航している。また、横浜港との間に内航フィーダーが就航している。

○八戸港の外貿コンテナ取扱量は、2004年時点では東北各港で第3位である。

○外貿コンテナ取扱量を航路別に見ると、韓国・中国航路の取扱量が一著しい伸びを見せ、2003年時点では最も取扱量の多い航路となっている。

東北各港の外貿コンテナ定期航路

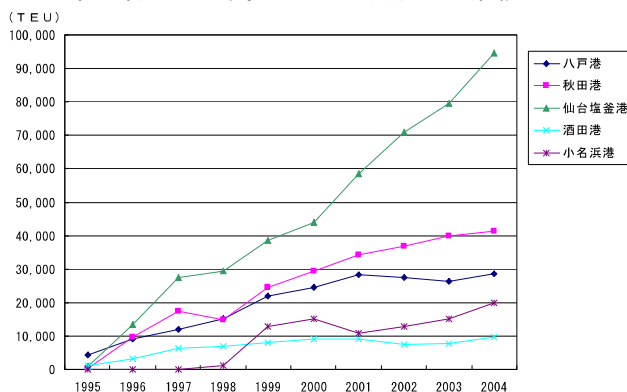


八戸港のコンテナ定期航路

港名	航路			開設年月	運行回数
	航路名	寄港地	船社名		
八戸	東南アジア	八戸-仙台-釜山-光陽-基隆-高雄-香港-シンガポール-香港-高雄-基隆-新潟-苫小牧-八戸	パシフィック・インターナショナル・ラインズ (PIL)	89/08	1回/週 (日)
	韓国・中国	八戸-仙台-小名浜-常陸那珂-釜山-蔚山-上海-釜山-苫小牧-八戸	南星海運	98/08 (02/01)	1回/週 (水)
		八戸-函館-釜山-大連-光陽-青島-釜山-新潟-苫小牧-八戸			1回/週 (月)
	北米	八戸-釜山-大阪-名古屋-清水-東京-シアトル-バンクーバー-シアトル-苫小牧-八戸	カエストット・シッピング・ラインズ	98/10	1回/月
内航フィーダー	八戸-苫小牧-横浜-仙台塩釜-宮古-八戸	株横浜コンテナライン		99/09	1回/週 (木)
	八戸-東京-仙台-八戸	井本商運(株)		06/03	1回/週 (土)

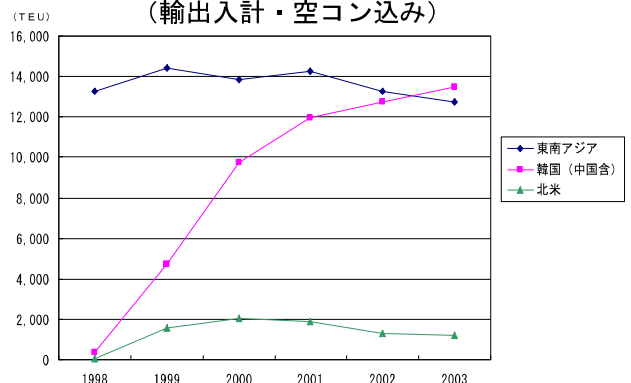
資料：八戸市産業政策課(平成18年3月4日)

東北各港の外貿コンテナ取扱量の推移



※2004年は港湾管理者からの聞き取りによる速報値

八戸港の航路別コンテナ取扱量 (輸出入計・空コン込み)

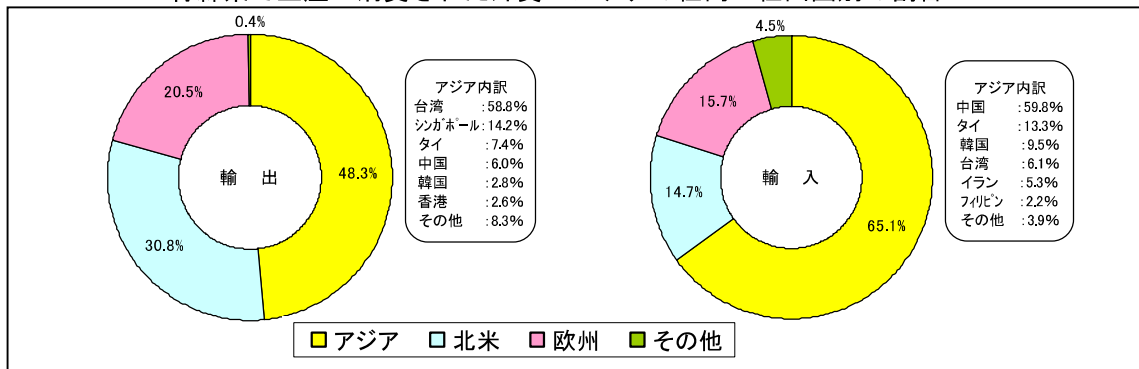


資料：青森港湾統計

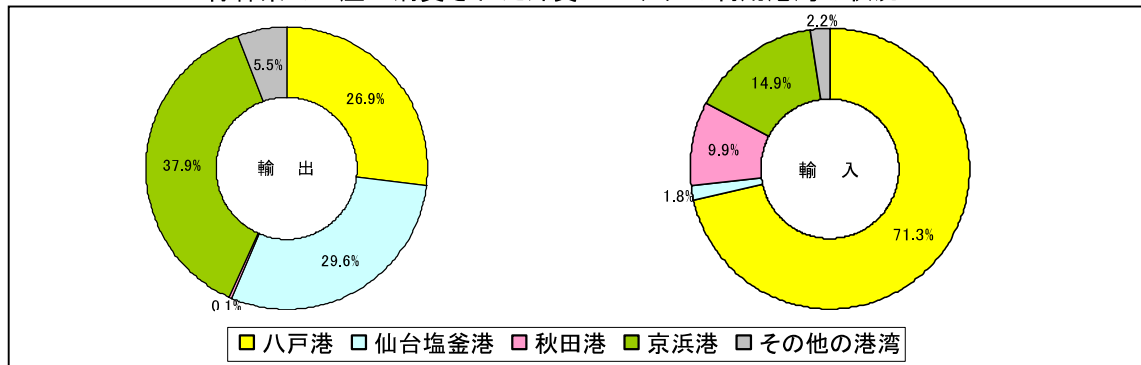
(2) コンテナ流動

- 青森県で生産・消費された外貿コンテナ貨物を仕向・仕出国別に見ると、ともにアジア地域の占める割合が最も高く、なかでも、仕向国では台湾、仕出国では中国の占める割合が高い。
- 青森県で生産される外貿コンテナ貨物は、7割以上が県外港湾から輸出されている。一方で、消費される外貿コンテナ貨物については、7割以上が八戸港から輸入されている。
- 地域別の流動を見ると、津軽地域で生産される外貿コンテナ貨物の殆どは県外港湾から輸出されている。

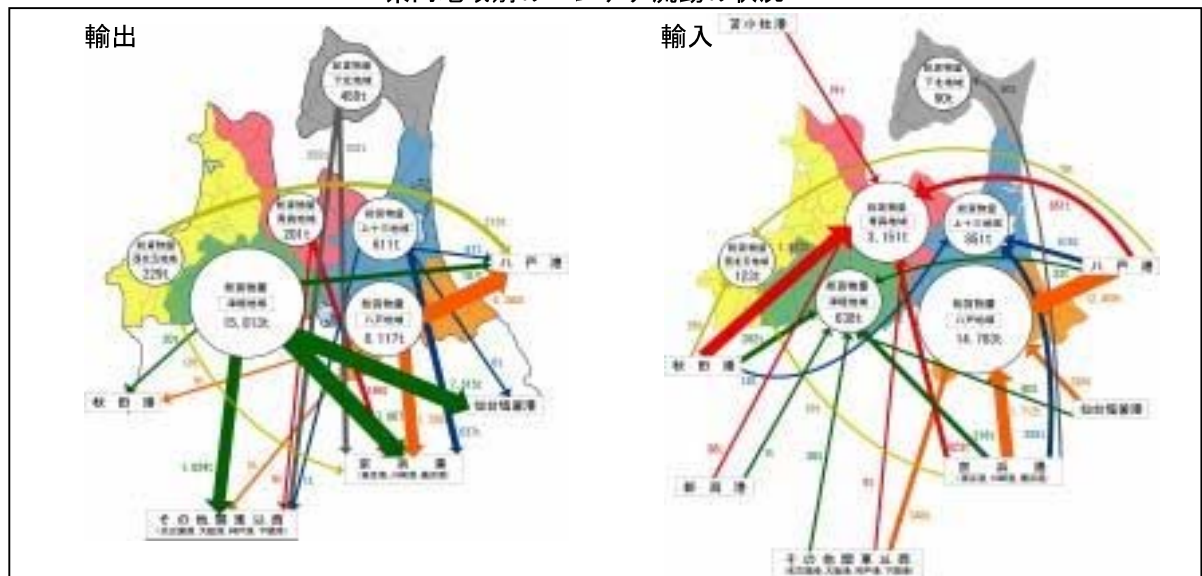
青森県で生産・消費された外貿コンテナの仕向・仕出国別の割合



青森県で生産・消費された外貿コンテナの利用港湾の状況



県内地域別のコンテナ流動の状況



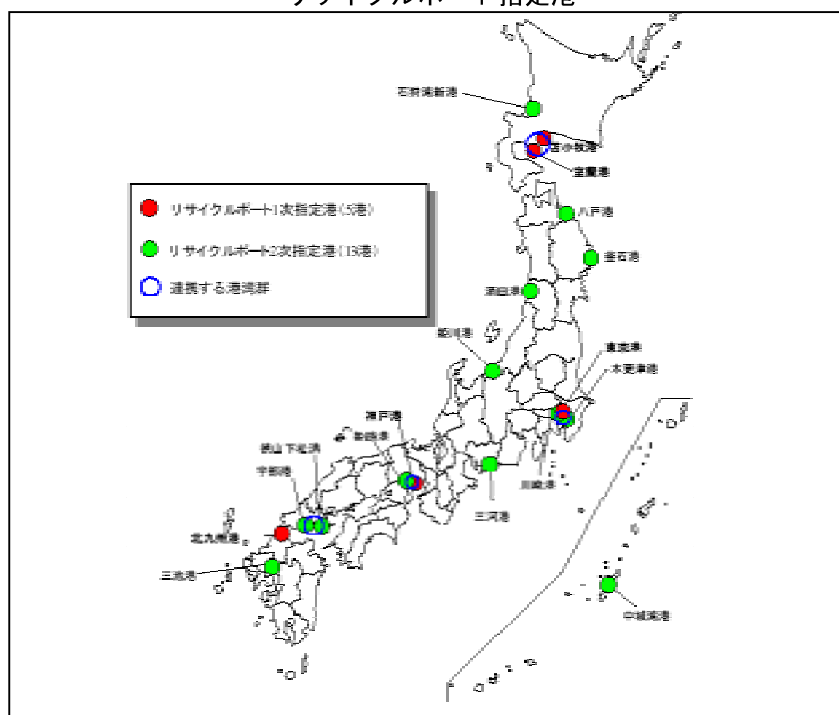
資料：平成15年度全国輸出入コンテナ流動調査

3. 産業動向

(1) リサイクル関連

- 青森県は、県内のリサイクル資源を活かした自然還元に資する製品を生み出すシステム構築を通じて、自然環境の保全・再生を目指す構想である「あおりエコタウンプラン」を策定し、2002年12月25日に、経済産業省・環境省の共同承認を受けている。
- 具体的には八戸地区において、古くから蓄積された金属溶融還元・金属精錬技術を活用して、ホタテ貝殻や一般廃棄物の償却灰等を安全な形で再資源化することにより、水産資源の育成に関する漁礁や天然砂利の代替品としての人工スラグ生産事業等を推進することとしている。
- 八戸港は、2003年4月23日に、国土交通省の重点施策の一つである「総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）」の指定も受けており、「あおりエコタウン：八戸ゼロエミッションシステム」や「環境・エネルギー産業創造特区」等との連携を目指している。
- 青森県のリサイクル資源の輸出状況はアジアへ向けた輸出が中心である。

リサイクルポート指定港

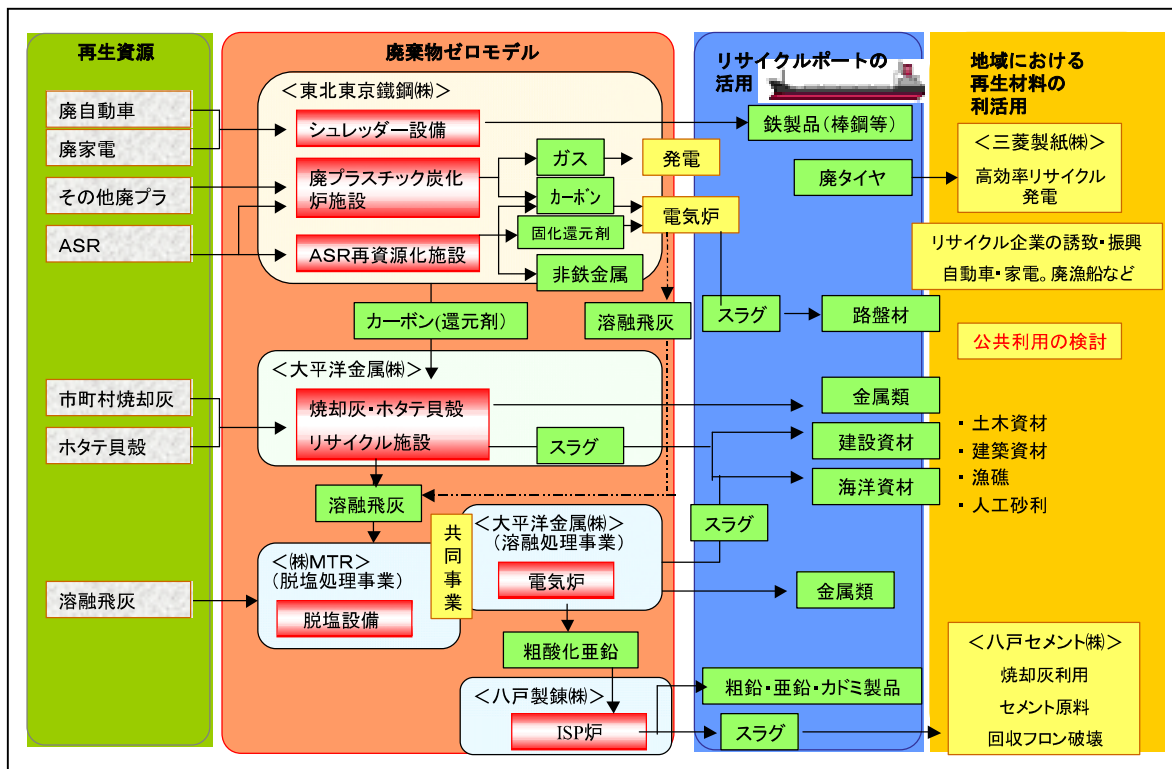


青森県の国別品目別再生資源輸出货量

輸移出入	循環資源	取扱量(t)	係留場所	仕向け港	
輸出合計	スクラップ	6,511	八太郎B岸壁	中国（江門港、湛江港、海門港）	
		174	八太郎E岸壁	香港（香港港）、台湾（高雄港）	
		871	八太郎J岸壁	韓国（釜山港）、香港（香港港）、台湾（高雄港）	
		スクラップ 計	7,556	—	—
	各種スラグ	43,090	河原木2号埠頭A岸壁	フィリピン（ピラネバ港）	
		29	八太郎J岸壁	台湾（高雄港）	
		各種スラグ 計	43,119	—	—
	中古機械	3,873	八太郎E岸壁	シンガポール（シンガポール港）、韓国（釜山）、香港（香港港）	
		11,554	八太郎J岸壁	シンガポール（シンガポール港）、韓国（釜山）、香港（香港港）	
		29	八太郎P岸壁	アメリカ（シアトル港）	
	中古機械 計	15,456	—	—	
輸出合計		66,131	—	—	

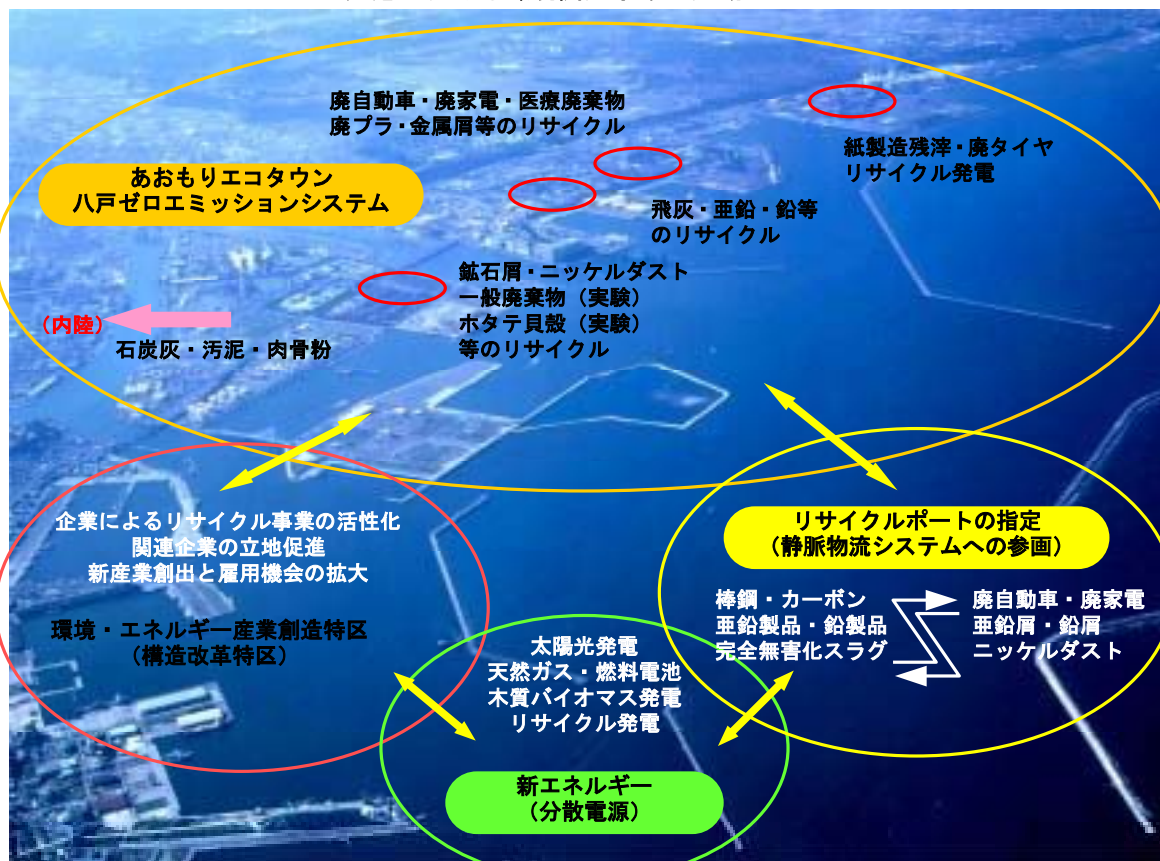
資料：青森県資料

あおもりエコタウンプランのスキーム図



資料：八戸市提供資料

八戸港における環境関連事業の連動イメージ



資料：八戸市提供資料

(2) 臨海部における風力発電

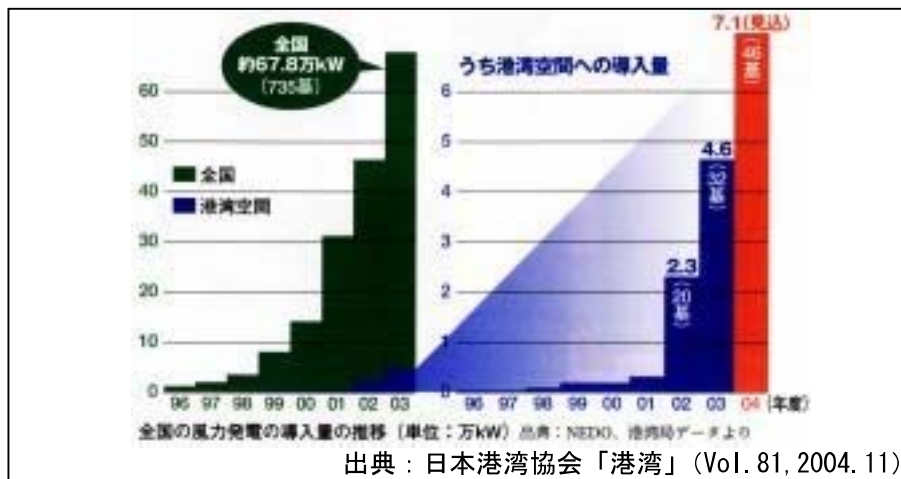
○近年、我が国における風力発電導入量が急速に伸びている中、特に港湾空間への導入が急増してきている。

○青森県内では、八戸港において事業化が検討されている。

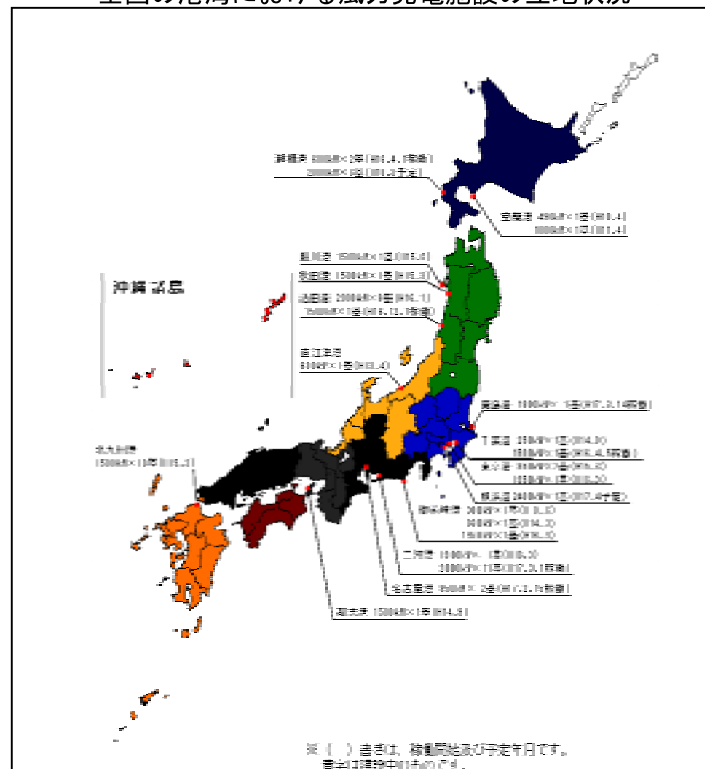
○八戸港の例

- ・八戸市では、「海から拓け、海と共に発展してきた」と言われるように、海を活かしたまちづくりを進めている。
- ・そうした中、洋上風力発電に着目し、勉強会の立ち上げ、事業化調査の実施などの取組みを行ってきている。
- ・全国にも例のない八戸独自の洋上風力発電事業モデルの構築を目指している。
- ・2003年に策定した「八戸市地域新エネルギービジョン」において、2010年度の数値目標として、最終消費エネルギーの6%を新エネルギーでまかなうことを掲げている。

全国における風力発電の導入量及び港湾空間への導入量



全国の港湾における風力発電施設の立地状況



4. 観光動向

(1) クルーズ観光

○日本のクルーズ人口は世界的に見てまだ少ないものの、潜在的にはまだまだ需要が見込まれている。

○外航クルーズ船の寄港回数をみると、東北は全国と比較して少ない。

○青森港では、内航クルーズ船の寄港が定着化しており、特に、ねぶた祭りクルーズの人気が高い。

世界のクルーズ人口推移

国名	1990年	1997年	1998年	1999年
アメリカ	3,500	5,505	5,500	6,250
イギリス	180	650	635	746
ドイツ	190	283	283	283
カナダ	150	250	250	250
イタリア		250	250	250
フランス	75	150	165	223
アジア（除く日本）	75	500	800	800
日本	175	186	176	169
その他	280	375	395	445
合計	4,625	8,149	8,454	9,416

出典：(社)日本外航客船協会
「平成13年度わが国における旅客クルーズの振興に関する提言について」

地域別外航クルーズ船寄港回数

地域	1999年	2000年	2001年	2002年	合計	年平均
北海道	9	13	8	15	45	11
東北	12	5	6	6	29	7
関東	42	46	44	43	175	44
北陸	14	14	11	5	44	11
中部	7	8	2	4	21	5
近畿	28	37	39	55	159	40
四国	2	14	2	7	25	6
中国	1	11	17	27	56	14
九州	25	141	197	42	405	101
沖縄	69	80	65	76	290	73
合計	209	369	391	280	1,249	312

出典：国土交通省海事局外航課

ねぶたと客船



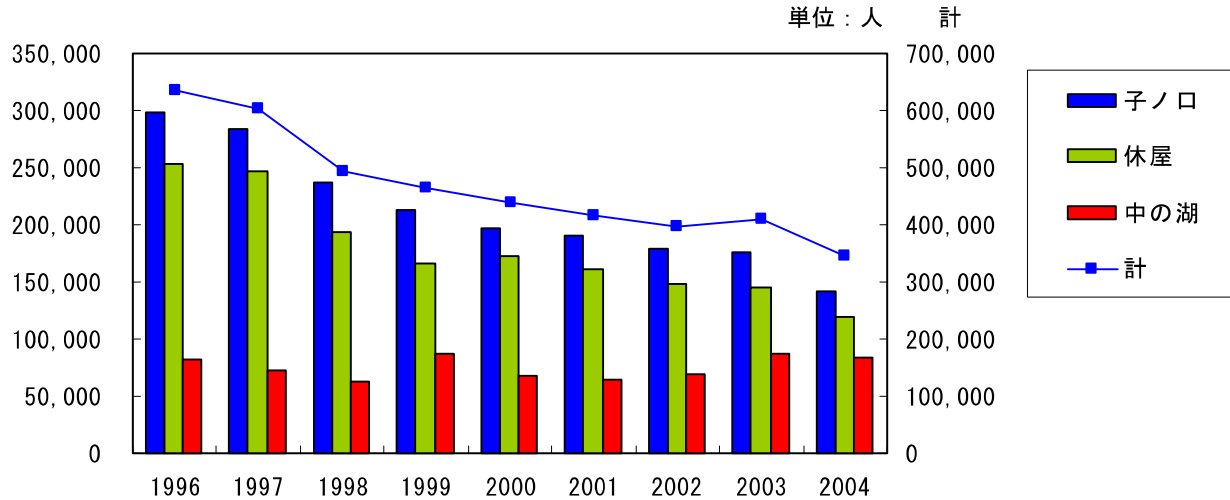
青森県に寄港したクルーズ船の実績

港名	年度	寄港期間	岸壁水深(m)	船名	クルーズ名	外内航	
青森港	1999	1999/4/9	-10.0	ふじ丸	春の日本一周クルーズ	内航	
		1999/5/3	-10.0	さんふらわあ みと	弘前桜祭りクルーズ	内航	
		1999/5/3	-10.0	さんふらわあ えりも	弘前桜祭りクルーズ	内航	
		1999/7/14	-10.0	ぼしふいっくびいなす	チャータークルーズ	内航	
		1999/7/16	-10.0	ぼしふいっくびいなす	チャータークルーズ	内航	
		1998/7/26~27	-10.0	ふじ丸	シニア洋上クルーズ	内航	
		1999/8/3	-10.0	にっぽん丸	東北三大祭クルーズ	内航	
		1998/8/6~7	-10.0	飛鳥	竿灯・ねぶた祭クルーズ	内航	
		1999/8/30	-10.0	ふじ丸	青森県青年の船	外航	
		1999/9/10	-10.0	ふじ丸	青森県青年の船	外航	
	2000	2000/5/11	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2000/7/16	-10.0	ふじ丸	青森ワンナイトクルーズ	内航	
		2000/7/17~18	-10.0	ふじ丸	青森シニア洋上クルーズ	内航	
		2000/8/3	-10.0	にっぽん丸	青森三大祭クルーズ	内航	
		2000/8/6~7	-10.0	飛鳥	竿灯・ねぶた祭クルーズ	内航	
		2000/8/18~19	-10.0	威臨丸	青森港内クルーズ	内航	
		2000/9/16	-10.0	飛鳥	チャータークルーズ	内航	
		2000/9/16	-10.0	ふじ丸	青森県みどりの船	内航	
		2001	2001/5/9	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航
			2001/5/11	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航
	2001/6/19		-9.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
	2001/7/21		-13.0	ふじ丸	チャータークルーズ	内航	
	2001/8/3		-10.0	にっぽん丸	東北夏祭りクルーズ	内航	
	2001/8/6~7		-10.0	飛鳥	竿灯・ねぶた祭クルーズ	内航	
	2001/9/1		-10.0	ふじ丸	十和田湖国境祭りと 越中おわら風の盆クルーズ	内航	
	2001/9/13~15		-10.0	飛鳥	チャータークルーズ	内航	
	2001/10/21		-10.0	飛鳥	チャータークルーズ	内航	
	2002		2002/4/1	-10.0	飛鳥	春の日本一周クルーズ	内航
		2002/4/18	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2002/4/29	-10.0	にっぽん丸	日本一周クルーズ	内航	
		2002/5/3	-10.0	ぼしふいっくびいなす	ゴールデンウィーク日本一周	内航	
		2002/5/4	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2002/5/6	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2002/5/25	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2002/7/22	-10.0	ぼしふいっくびいなす	チャータークルーズ	内航	
		2002/8/5	-10.0	にっぽん丸	夏祭りクルーズ	内航	
		2002/8/6~7	-10.0	飛鳥	竿灯・ねぶた祭クルーズ	内航	
		2002/8/27	-10.0	飛鳥	チャータークルーズ	内航	
		2002/8/29	-10.0	飛鳥	チャータークルーズ	内航	
		2002/9/8~9	-10.0	にっぽん丸	秋の日本一周クルーズ	内航	
		2002/9/10~11	-10.0	ふじ丸	金沢加賀百万石クルーズ	内航	
		2002/10/3	-10.0	飛鳥	チャータークルーズ	内航	
	2003	2003/5/16	-13.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2003/5/18	-13.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2003/6/6	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2003/8/5~6	-10.0	にっぽん丸	夏祭りクルーズ	内航	
		2003/8/6~7	-10.0	飛鳥	竿灯・ねぶた祭クルーズ	内航	
		2003/9/4	-10.0	ふじ丸	あすなる友の船	内航	
		2003/9/5	-10.0	ふじ丸	あすなる友の船	内航	
		2003/9/8~9	-10.0	ふじ丸	チャータークルーズ	内航	
		2003/9/12	-10.0	飛鳥	チャータークルーズ(青銀)	内航	
		2003/9/16	-10.0	飛鳥	チャータークルーズ(青銀)	内航	
	2003/9/29	-10.0	飛鳥	秋の日本一周クルーズ	内航		
	2004	2004/4/7	-10.0	にっぽん丸	春の津軽クルーズ (&青森市民クルーズ)	内航	
		2004/5/30	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2004/6/1	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2004/6/20	-10.0	CLIPPER ODYSSEY	日本クルーズ	外航	
		2004/8/4	-10.0	ぼしふいっくびいなす	ねぶたクルーズ	内航	
		2004/8/5	-10.0	にっぽん丸	夏祭りクルーズ	内航	
		2004/8/6~7	-10.0	飛鳥	竿灯・ねぶたクルーズ	内航	
		2004/9/30	-10.0	飛鳥	秋の日本一周クルーズ	内航	
		未定	-10.0	飛鳥	チャータークルーズ(青銀)	内航	
		未定	-10.0	飛鳥	チャータークルーズ(青銀)	内航	
	八戸港	1999	1999/5/2	-12.0	ぼしふいっくびいなす	ゴールデンウィーク日本一周クルーズ	内航
		2000	2000/10/14	-12.0	飛鳥	秋のみちのく紅葉クルーズ	内航
		2001	2001/7/24	-7.5	ふじ丸	八戸市民クルーズ	内航
			2002/7/24	-10.0	ぼしふいっくびいなす	チャータークルーズ	内航
		2002	2002/9/1	-7.5	ふじ丸		内航
			2002/9/3~4	-7.5	ふじ丸	八戸信用金庫創立80周年記念クルーズ	内航
			2002/9/6	-7.5	ふじ丸		内航
		2003	2003/7/2	-7.5	飛鳥	雪と桜の日本一周クルーズ	内航
			2003/10/17	-7.5	ふじ丸	秋のクルーズ	内航
			2003/10/18	-7.5	ぼしふいっくびいなす	三越友の会創立30周年クルーズ	内航
	大湊港	2001	2001/9/23	-7.5	ふじ丸	秋の日本一周クルーズ	内航
		2002	2002/10/18	-7.5	ぼしふいっくびいなす	秋の釧路・下北・金華山クルーズ	内航
	七里 長浜港	1999	1999/7/29	-7.5	ふじ丸	利尻礼文クルーズ	内航
			1999/10/9	-7.5	ふじ丸	白神山地クルーズ	内航
		2000	2000/9/15	-7.5	ふじ丸	鱒ヶ沢青森ワンナイトクルーズ	内航
		2001	2001/7/20	-7.5	ふじ丸	函館ワンナイトクルーズ	内航
		2002	2002/9/8	-7.5	ふじ丸	金沢加賀百万石クルーズ	内航

(2) 遊覧船観光

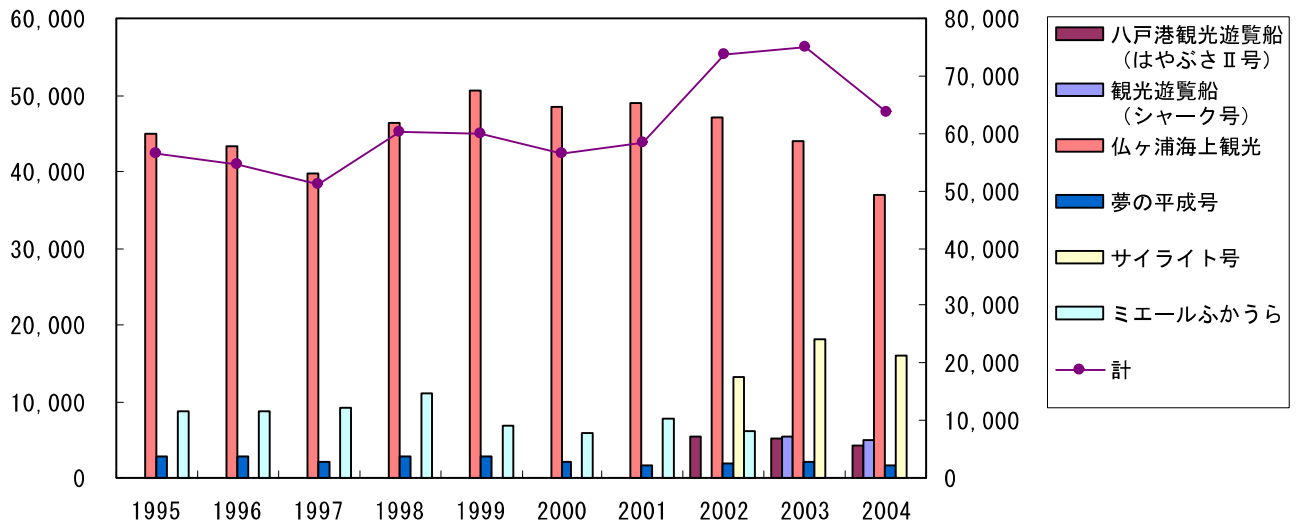
○十和田湖における観光遊覧船の利用客は近年、減少傾向にある。その他については、サイライト号等の新たな周遊ルートの就航により、増加傾向を示している。

乗船地別観光遊覧船利用状況（十和田湖の遊覧船）



出典：青森県観光統計概要

観光遊覧船利用状況（その他の遊覧船）



八戸港観光遊覧船 (はやぶさII号)	燕島⇄八戸港
観光遊覧船 (シャーク号)	沼館⇄八戸港
仏ヶ浦海上観光	佐井⇄牛滝
夢の平成号	脇野沢⇄鯛島⇄貝崎
サイライト号	佐井⇄仏ヶ浦
ミエールふかうら	深浦⇄入前崎 深浦⇄行合崎

出典：青森県観光統計概要

5. 環境

- 青森港は、東北地方で緑地面積率が最も高い港湾の一つである。
- 閉鎖性水域である陸奥湾では、河川等からの生活排水の流入により水質・底質の悪化が懸念される。
- 青森市では、積雪の処理方法の一つとして海上投入が行われている。

東北地方における各港湾の緑地面積

港湾名	都道府県	種類	供用緑地面積 (ha)	臨港地区面積 (ha)	緑地面積率※
青森	青森県	○	21.6	140	15.4%
八戸	青森県	○	14.6	625	2.3%
むつ小川原	青森県	○	1.5	992	0.2%
秋田	秋田県	○	18.5	714	2.6%
能代	秋田県	○	6.5	276	2.4%
船川	秋田県	○	1.8	253	0.7%
久慈	岩手県	○	4.9		
宮古	岩手県	○	4.5	66	6.8%
釜石	岩手県	○	0.2		
大船渡	岩手県	○	4.0		
仙台塩釜	宮城県	◎	29.2	814	3.6%
石巻	宮城県	○	11.2	432	2.6%
酒田	山形県	○	17.8	671	2.7%
相馬	福島県	○	14.0		
小名浜	福島県	○	13.7	81	16.9%

種類凡例 一◎：特定重要港湾、○：重要港湾

※緑地面積率 = 供用緑地面積 / 臨港地区面積

資料：国土交通省港湾局計画課「平成12年港湾計画書」

国土交通省東北地方整備局港湾空港部ホームページ

【参考】

平成14年時点での我が国の港湾空間における緑地面積率は7.3%

(平成16年6月 交通政策審議会港湾分科会 第1回環境部会資料-4「エコポート政策及びその実施状況」)

東北地方における主な内湾域

都道府県	湾名称	面積 (km ²) S	湾口幅 (km) D2	湾内最大水深 (m) D1	湾口最大水深 (m) W	閉鎖度指標
青森県	陸奥湾	1667.89	14.00	75.00	75.00	2.92
岩手県	宮古湾	24.10	4.80	76.00	76.00	1.02
	釜石湾	8.70	2.30	49.00	49.00	1.28
	大船渡湾	7.89	0.20	38.00	38.00	14.04
宮城県	松島湾	35.30	1.70	4.00	4.00	3.49
	気仙沼湾	15.40	2.60	29.00	21.00	2.08
	雄勝湾	19.82	3.01	46.00	46.00	1.48
	女川湾	12.10	2.50	36.00	36.00	1.39
福島県	小名浜湾	3.97	1.00	20.00	20.00	1.99

資料：環境庁告示（1993年8月27日）より抜粋

青森市における排雪量と海上投棄量

単位：千トン

年度	排雪量		
	全体量	うち港湾内	割合
平成8年度	1,273	737	58%
平成9年度	1,737	1,052	61%
平成10年度	2,680	1,610	60%
平成11年度	894	383	43%
平成12年度	3,518	1,835	52%
5カ年合計	10,102	5,617	56%



資料：国土交通省東北地方整備局資料

6. みなとまちづくり

(1) 県内での取り組み

○県内では、海やみなとに関わる市民団体が組織され活動を展開している。

○青森県むつ市川内町の取り組みとして、海辺の自然体験活動の指導者を養成する「海辺の達人養成講座 in かわうち」と、その受講生が講師となり子ども達に海辺の楽しさを教える「子ども自然学校 in かわうち」を2004年8月に同時に開催。

○県内には、公共マリーナが2箇所、ポートパークが2箇所整備されている。

(八戸港白銀地区のPBSは来年度完成予定)

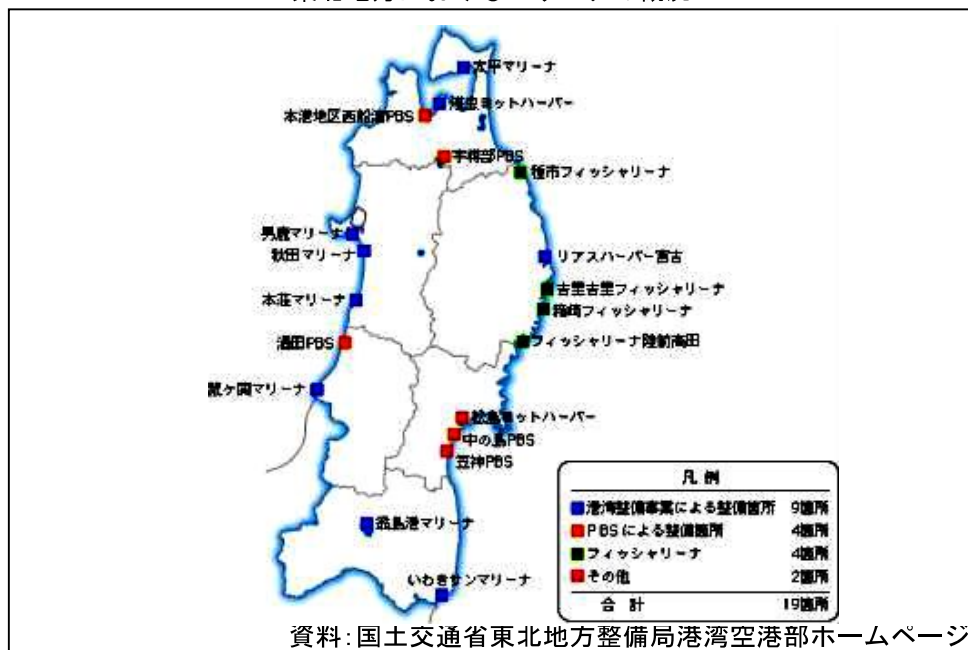
青森県で海やみなとに関連した活動を行っている主な団体

NPO等団体名称	活動目的
① はちのへ・みなとまちづくりネットワーク協議会	みなとに関わる各団体（地区観光協会、町内会、NPO、行政機関など）が協働して、みなとまちづくりに取り組んでいる。（「海の3in3in」ネットワーク構想など）
② 八戸商工会議所青年部	八戸のみなとまちづくりプランの検討を進め、港や海を活かしたまちづくりに取り組んでいる。（八戸港色彩計画など）
③ はちのへみなとまちづくり市民フォーラム	市民と行政機関や企業、市民団体等とパートナーシップをとり、みなとについての学習や活用方策を考え、市民によるみなとづくりの実現を図る。（八戸のみなとづくり懇談会、フォーラム開催など）
④ 「海の八戸」NPO	八戸市民や観光客に、海を活用したブルーツーリズム、親水空間利用などの各種事業を行い、地域活性化に貢献する。（屋形船、遊覧船、海の朝市など）
⑤ NPO「Acty」	世界に誇れるまちづくりに取り組み、地域社会の活性化に寄与することを目的として活動している。（中心街の様々なストリートゲーム、みなと博ランカイなど）
⑥ おいでよあぶらかわ会	青森市民や近隣町村民に対して、商店街の活性化や環境保全に関する事業及び子どもの健全育成を図る事業等を行うことによって、まちづくりや地域社会の活性化を目指し、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的として活動している。
⑦ シェルフォレスト川内	むつ市川内町を中心とした下北半島のすばらしい自然環境の中で、大人、子供、高齢者、障害者のすべての人々が時と所を共有し、学び、遊び、交流することを中心とした自然学校及びボランティア体験育成事業、文化、芸術、スポーツの振興及びまちづくり事業などを行うことによって、人々の相互理解の向上と幸福の実現に寄与することを目的として活動している。

海辺の達人養成講座の様子



東北地方におけるマリーナの概況



【青森港本港地区景観形成モデル事業】

○港湾景観形成モデル事業は、港の特色を生かした良好な景観形成を図るため、モデル的な港湾において景観形成のための計画を策定し、これに基づき港湾景観を積極的に向上させる事業である。本事業は、青森港において平成7年10月に第1次承認港として全国7港の一つとして承認された。

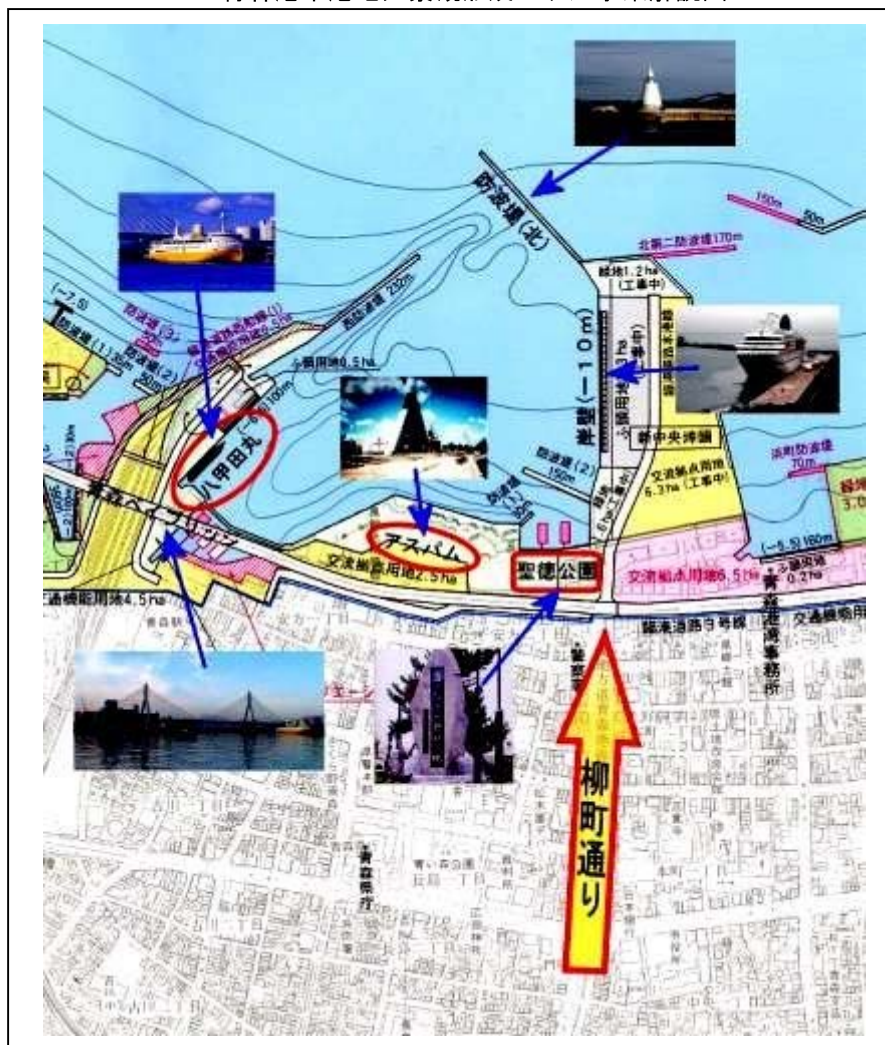
<取り組みの概要>

○岸壁(-10m)では、国内外のクルージング需要増加に対応するため東北地方では初となる3万トン級大型客船バースとしての整備を行った。平成15年8月5日には供用開始記念式典を開催、第一船の「八甲田丸」が着岸し、その後7隻の旅客船が着岸し、賑わいを見せている。

○防波堤(北)では、大型旅客船バースを始めとする当該区域の港内静穏度の向上及び船舶航行の安全を図るため整備を行い、防波堤先端部にはデザイン灯台が配置されている。

○今後は岸壁(-10m)および防波堤(北)の完成で、青森港に入出港する旅客船の航行安全が確保されることはもとより、青森県観光物産館「アスパム」、青森ベイブリッジ、メモリアルシップ「八甲田丸」と一体となった景観形成が図られ、青森駅、中心商店街に近接した立地条件を活かしつつ、開放された魅力溢れるウォーターフロント空間として多くの一般市民や来訪客から親しまれ利用されていくことが期待される。

青森港本港地区景観形成モデル事業解説図



【交流遺産による都市再生調査（「平成16年度 全国都市再生モデル調査」 青森市）】

■取り組みの概要

青森市は、明治から北海道と本州の間をつなぐ青函連絡船が就航し、駅と港が一体となった中心市街地を形成してきた。連絡船廃止後、この港湾空間を観光客や市民の憩い場として再開発してきたが、様々の環境変化を背景に、港への市民意識が薄れ、施設利用等が低迷している状況にある。

東北新幹線新青森駅開業を目前に、並行在来線となる現青森駅周辺（ウォーターフロント地区含む）の魅力を高め、将来の新幹線効果を最大限に享受するため、交流拠点都市として発展してきた本市の歴史を語る青函連絡船メモリアルシップ「八甲田丸」と周辺のウォーターフロント地区を「交流遺産」と定義し、市民と一緒に既存ストックを有効に活用した賑わい再生の在り方を検討した。

■まりづくりへの効果（平成17年4月1日現在）

○東北新幹線新青森駅開業に向けた取り組みが加速

新幹線開業（2010年）を目標に、県都中心市街地再活性化の核として、本ウォーターフロント地区に「ねぶた」を核とした文化観光交流施設、青函連絡船「八甲田丸」等で構成する「ふるさとミュージアム」整備の検討がスタート。

○市民の機運の高まり

調査の中で「連絡船保存に対する意識は、市民よりも来訪者の方が圧倒的に高い」、「連絡船を利用した世代（50代）が、保存への否定的傾向が高い」、「市民の港への来訪機会が著しく低い」などの課題が顕在化する一方で、任意団体が本調査を契機として「昭和の懐かしいミナト界限や賑わいを感じる機会を提供」するための事業を計画するなど、民間レベルでの試みもスタート。

○関係者間の連携強化

三セクの破綻等によりウォーターフロントに対する関係者間の意識が低下していたが、本調査を契機に、連携強化を図ることを確認。



八甲田丸



青森市街地

資料：内閣官房 都市再生本部ホームページ

【はちのへ「海のステーション」ネットワーク構想】

○八戸のみなと活性化のため、各エリアを「海のステーション」として情報発信拠点・交流拠点として活用し、各駅をネットワーク化することで、市民や観光客をみなとへ誘導することと、「食」にこだわり、みなとでの飲食・物産販売を促進することで地元での消費額を増加させることを目的とした構想。

<構想の概要>

○館鼻地区・鮫地区にそれぞれ「海のステーション」を設置し、観光案内所、物産販売、レストラン等を開設する。

1. 館鼻地区＝「海のステーションたてはな」

- ・海の観光総合案内所を開設し、観光客にパンフレット等を配布する。
- ・物産店、レストラン、イベント広場等を開設し、市民や観光客に飲食サービス・土産品を提供する。（海の朝市、スポーツ遊戯施設、海の映画館等）

2. 鮫地区＝「海のステーションさめ」

- ・海の歴史資料館を開設し、パネルや資料を展示する。
- ・観光案内所兼無料休憩所を開設し、観光客にパンフレットの配布や、観光情報を提供する。
- ・さめ味覚祭りを開催し、あるいはイベント広場（燕島バーベキュー広場）を開設する。

○みなとのガイドマップ作成

- ・みなと周辺部のガイドブックを作成し、観光案内所等で無料配布する。

はちのへ「海のステーション」ネットワーク構想図



資料：八戸市提供資料

【八戸みなとまちづくり色彩計画】

〇八戸港では、地域づくりの一環として街並みや景観を色彩の統一等により、より良いものにしていくための「八戸港色彩計画」を策定中である。策定にあたっては、地元住民の合意形成の他、有識者や企業からの意見も聴取していく。

八戸港色彩計画の概要



資料：八戸みなとまちづくり色彩計画推進委員会

(2) みなとオアシス

【みなとオアシス制度】

- 「みなと」は、古くから地域の拠点として、暮らし・産業を支え、特色ある歴史・文化を育んできた。このようなみなとの本来持つ機能を活かし、にぎわいの創出や地域に関する情報提供など、地域の魅力づくりに貢献できる「みなと」づくりがますます求められている。
- このような背景のもと、中国・四国地方整備局が、平成15年11月20日に、市町村が住民と連携しみなとまちづくりをすすめるために制度化したのが「みなとオアシス」制度である。地方整備局長から、計画案を認定・登録を受け、様々な支援を得て、みなとまちづくりを推進する制度である。
- 「みなとオアシス」とは、海浜・旅客ターミナル・広場など「みなと」の施設やスペースを活用した地域交流拠点であり、「みなと」を、地域の方々や観光客など多くの人が気軽に立ち寄り交流する憩いの場、いわゆる「オアシス」として活用しようというものであり、次のようなタイプがある。
 - ・旅客ターミナル型：旅客船やフェリーのターミナルが中心となり、地域の玄関となっている。
 - ・海浜型：人工海浜が地域の訪問客の大部分を担い、インフォメーションセンター等の核となる施設が存在し休憩食事等をおこなうことができる。
 - ・ボートパーク型：マリーナ、ボートパークが中心となり、海からの訪問客の玄関となっています。



みなとオアシスのイメージ

【みなとオアシス 八戸海のステーションたてはな】

○平成 17 年 7 月 18 日の「海の日」に、東北地方整備局が 7 つの「みなとオアシス」の登録を行った。これにより、東北地方で初めての「みなとオアシス」が誕生した。青森県では八戸港が登録されている。

八戸みなとオアシスの概要



Minato OASIS Hachinohe
UMINO STATION TATERANA
みなとオアシス
八戸海のステーションたてはな



青森県
八戸港

～おんでやあんせ八戸～

- ・日本一の漁船集積地
- ・日本一の海の日曜朝市





「みなとオアシス 八戸海のステーションたてはな」は八戸港の中心部に位置し、目の前に全国屈指の漁船集積地である鮎川漁港があります。館内には、魚介類や地産産品などをはじめとした直売所があります。

日曜日の早朝には港側の岸壁において海の日曜朝市が開催され、新鮮な魚介類・農産物・衣類・雑貨など合計約 400 軒もの店が出店し、大変にぎわいます。周辺には、天然記念物「鰺島」や「蘆葦海岸」など観光地があり、八戸の観光拠点としてご利用頂けます。

みなとオアシスのエリアと構成施設



提供される主なサービス

- **情報**
・観光案内所・パンフレット
- **買物**
・土産物屋(海産物等)・自販機
- **飲食**
・軽食(2店舗)
- **その他**
・遊覧船運航(港内)



アクセス



- 公共交通機関：JR 八戸駅より徒歩 20 分
- 日本八戸駅より市営バス(船ヶ丘営業所行き)乗車 三日町(中央通り)乗り換え、三日町(BeFM 前)より市営バス(坂行き)乗車、新道二丁目バス停下車徒歩 8 分
- 日本八戸駅より市営バス(船ヶ丘営業所行き)乗車 三日町(中央通り)乗り換え、三日町(BeFM 前)より市営バス(日曜朝市営業バス、いさば町)乗車、船場奥遊覧下車徒歩 5 分【日曜朝市開催時のみ運行】
- 自動車利用：八戸自動車道「八戸」より 30 分

イベントのご紹介

- **日曜朝市**
(毎週日曜日：日の出～8 時頃に開催)
魚介・地域特産物の販売
- **湊ふるさとフェスティバル**
(7 月下旬)
イカダレース、活イカのつかみ取り等開催
- **八戸花火大会**
(7 月下旬)
約 3,000 発の打ち上げ花火




お問い合わせ先 (運営主体)

NPO 法人 海の八戸 NPO
電話: 0178-35-4370
Mail: umi-npo@agate.pjala.or.jp
URL: http://www.umi8-npo.jp/

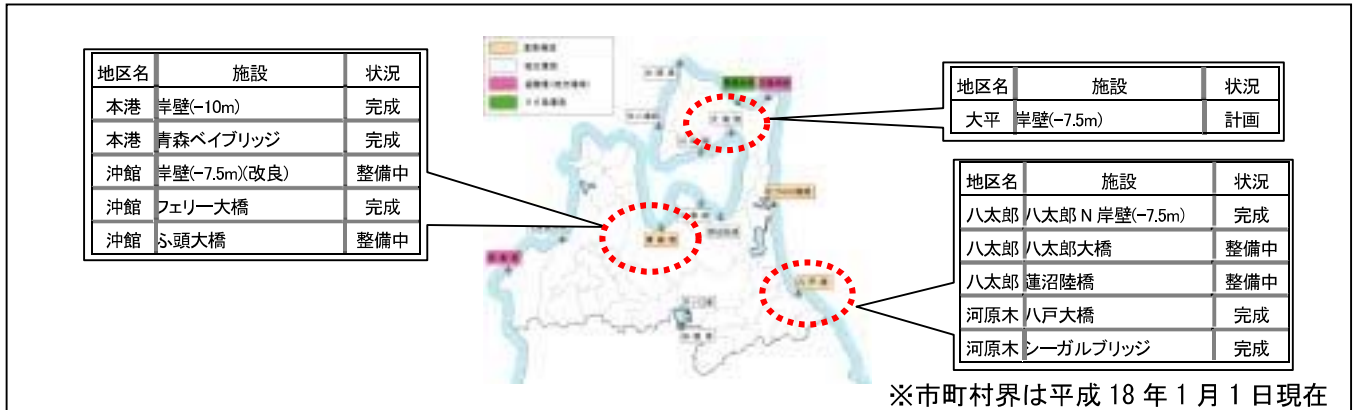
※湊ふるさとフェスティバルは 7 月 24 日、八戸花火大会は 8 月 5 日に開催された

資料：国土交通省東北地方整備局提供資料

7. 防災

- 県内港湾では、青森港、八戸港、大湊港において港湾施設の耐震強化に向けた整備が進められている。
- 多くの海岸保全施設が完成後20年以上経過しており、老朽化の進行が危惧される。

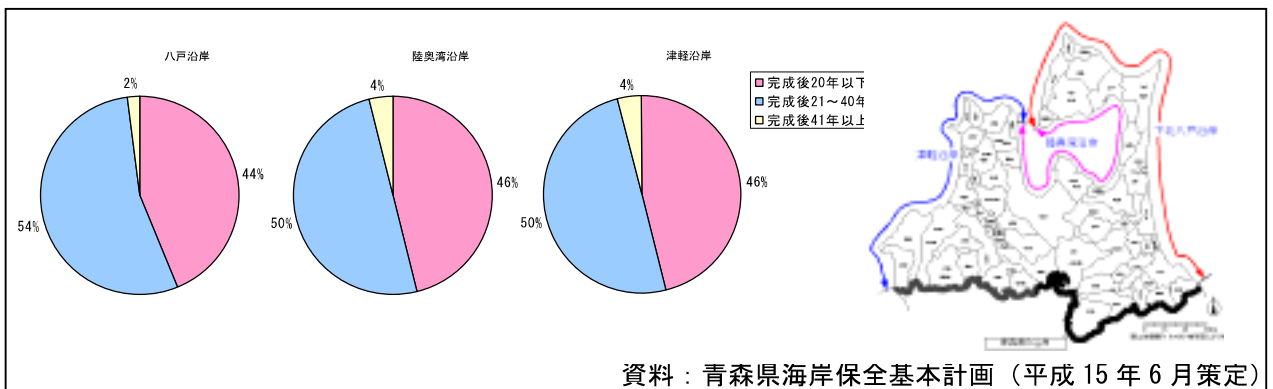
港湾施設の耐震強化状況



八戸港の耐震強化岸壁



県内沿岸における海岸保全施設の完成後年数



<付録>

「青森の港湾ビジョン」 策定経緯及び体制

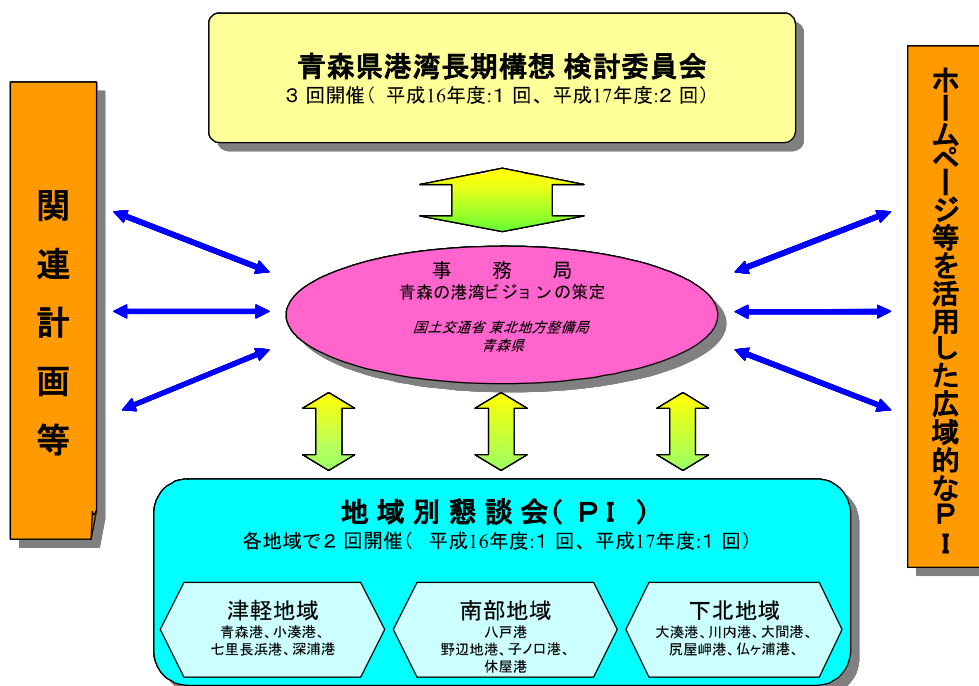
1. 策定経緯

「青森の港湾ビジョン」の策定にあたっては、学識経験者、有識者、関係行政機関、地域住民等から構成される青森県港湾長期構想検討委員会及び地域別懇談会を設置し検討しております。

- 平成17年 1月26日(水)「第1回青森県港湾長期構想検討委員会」開催
- 平成17年 2月10日(木)「第1回下北地域の港を考える懇談会」開催
- 平成17年 2月16日(水)「第1回南部地域の港を考える懇談会」開催
- 平成17年 2月18日(金)「第1回津軽地域の港を考える懇談会」開催
- 平成17年 9月14日(水)「第2回青森県港湾長期構想検討委員会」開催
- 平成17年11月25日(金)「第2回南部地域の港を考える懇談会」開催
- 平成17年11月28日(月)「第2回津軽地域の港を考える懇談会」開催
- 平成17年11月30日(水)「第2回下北地域の港を考える懇談会」開催
- 平成18年 1月30日(月)「第3回青森県港湾長期構想検討委員会」開催
- 平成18年 2月27日(月)～3月28日(火)

ビジョン(案)に対するパブリックコメントの実施

2. 策定体制



※PI(パブリック・インボルブメント)とは、県民等の皆様に情報を提供した上で広く意見を聴き、それらを計画づくりに反映することを意味し、パブリックコメントなども含まれます。

3. 青森県港湾長期構想検討委員会名簿

(順不同・敬称略)

委員長	稲村 肇	東北大学大学院情報科学研究科教授
委員	工藤 雅世	青森大学社会学部社会学科助教授
委員	佐々木 俊介	青森公立大学地域研究センター長
委員	佐々木 幹夫	八戸工業大学工学部環境建設工学科教授
委員	田村 早苗	青森大学大学院環境科学研究科助教授
委員	徳永 幸之	東北大学大学院情報科学研究科助教授
委員	松坂 知行	八戸工業大学工学部システム情報工学科教授
委員	山本 恭逸	青森公立大学経営経済学部教授
委員	大矢 卓	八戸港湾運送（株）代表取締役専務
委員	奥村 潮	フリーアナウンサー
委員	栴沢 孝子	八戸みなとまちづくり市民フォーラム代表
委員	雪田 博	(社) 青森県観光連盟事務局長
委員	杉山 陸子	(株) 企画集団ぷりずむ代表
委員	高松 亨	(財) 港湾空間高度化環境研究センター専務理事
委員	林 光男	青森県商工会議所連合会会長
委員	渡部 正人	日本通運（株）青森支店長
委員	赤司 淳也	国土交通省東北地方整備局港湾空港部長
委員	羽原 伸	青森県県土整備部長

4. 地域別懇談会名簿

<津軽地域の港を考える懇談会>

(順不同・敬称略)

佐藤 祥博	(財) 青森県フェリー埠頭公社専務理事
山岸 昌平	青森港振興協会会長
鳥谷部 眞実	青森港湾研究協会会長
脇川 一生	七里長浜港利用促進協議会理事
川島 芳正	青森商工会議所常議員
本堂 守康	平内町商工会会長
三上 智也	鱒ヶ沢町商工会事務局長
葛西 秀昭	深浦町商工会会長
若井 敬一郎	(社) 青森観光コンベンション協会理事
水村 祐治	深浦町観光協会会長
伊東 清隆	鱒ヶ沢町観光協会会長
伏見 幹男	日本通運(株) 青森支店海運課長
北上 敏昭	丸共運輸(株) 港湾事業部長 (H17.3まで)
白戸 勝昭	青森通運(株) 取締役港運部長
下總 正則	小坂製錬(株) 取締役総務部長
菊田 一貫	ボート天国実行委員会委員長
田中 利男	日本貿易振興機構青森貿易情報センター所長
石川 栄一	青森市貿易振興会会長
千葉 滋	安瀉みなとまつり実行委員会
中村 公英	中心市街地活性化協議会会長
柳谷 一仁	(社) 青森青年会議所理事長
脇坂 隆一	青森市都市整備部長
澤田 幸雄	青森市産業部長
蝦名 昭彦	平内町助役
太田 豊	鱒ヶ沢町助役
一戸 茂則	深浦町建設課長

<南部地域の港を考える懇談会>

(順不同・敬称略)

浦山 昭二	八戸港振興協会会長
小嶋 誠一	八戸商工会議所専務理事
松尾 拓爾	六ヶ所村商工会会長
中谷 純逸	野辺地町商工会会長
菩提寺 昭三	十和田湖商工会会長
沼田 昌敏	(社) 八戸観光協会事務局長
中村 春子	十和田湖観光協会会長
上村 宏之	八戸港湾運送(株) 常務取締役
坂本 一雄	新丸港運(株) 専務取締役
田中 信明	八戸通運(株) 取締役海運部長
岩見 富雄	(有) 八戸通船代表取締役
河村 憲一	(有) 観光漁業食品代表取締役
工藤 義隆	八戸港輸入木材協同組合監事
清水 正一	八戸造船事業協同組合理事長
土屋 岳史	原燃輸送(株) 六ヶ所輸送事業所総務部長
三浦 隆	十和田湖観光汽船(株) 代表取締役
葛西 慶信	海の八戸ボートクラブ会長
田中 利男	日本貿易振興機構青森貿易情報センター所長
矢野 峰生	八戸大学ビジネス学部助教授
駒井 庄三郎	みなと八戸ネットワーク研究会座長
坂本 憲昭	はちのへ・みなとまちづくりネットワーク協議会代表幹事
小笠原 哲男	十和田湖奥入瀬観光ボランティアの会 会長
小瀧 勇	八戸市建設部長 (H17.3まで)
石岡 省藏	八戸市建設部長 (H17.4から)
高島 司	八戸市経済部長 (H17.3まで)
石橋 元生	八戸市経済部長 (H17.4から)
古田 力也	野辺地町助役
戸田 衛	六ヶ所村助役
小笠原 一幸	十和田市建設部長 (H17.3まで)
東 昭悦	十和田市建設部長 (H17.4から)

<下北地域の港を考える懇談会>

(順不同・敬称略)

高野 敏昭	むつ商工会議所専務理事 (H17.3まで)
布施 昭則	むつ商工会議所専務理事 (H17.4から)
半田 義秋	川内町商工会会長
松山 義文	大間町商工会会長
川上 昌三	東通村商工会事務局長 (H17.3まで)
二本柳 榮	東通村商工会事務局長 (H17.4から)
山口 捷夫	佐井村商工会会長
橋本 裕一	(社) むつ市観光協会会長
牛滝 春夫	川内町観光協会会長
大見 光男	大間町観光協会会長
北野 友宣	佐井村観光協会会長
小池 清次郎	日鉄鉱業(株) 尻屋鉱業所所長
鶴崎 由典	三菱マテリアル(株) 青森工場工場長補佐 (H17.3まで)
栗野 俊幸	三菱マテリアル(株) 青森工場総務課長 (H17.4から)
渡辺 崇	佐井定期観光(株) 事務長
磯川 博	仏ヶ浦海上観光(株) 代表取締役
工藤 知彦	海とロマンのまちづくり推進委員会下北衆会会長
島 康子	あおぞら組代表
藤井 幸男	むつ市建設部長
山田 文忠	川内町助役 (H17.3まで)
伊藤 健一	大間町建設環境課長
田野 武光	東通村助役
奥本 好勝	佐井村助役

青森の港湾ビジョン

『青い海と港から明日へ、世界へ』

平成18年4月20日

<お問い合わせ先>

○国土交通省 東北地方整備局

青森港湾事務所

住 所：青森市本町3丁目6番34号

電 話：017-775-1402

FAX：017-732-6480

H P：http://www.pa.thr.mlit.go.jp/aomori/

担 当：企画調整室

八戸港湾・空港整備事務所

住 所：八戸市沼館4丁目3番19号

電 話：0178-22-9397

FAX：0178-24-9063

H P：http://www.pa.thr.mlit.go.jp/hachinohe/

担 当：企画調整課

○青森県 県土整備部 港湾空港課

住 所：青森市長島1丁目1番1号

電 話：017-734-9676

FAX：017-734-8194

H P：http://www.pref.aomori.lg.jp/kowankuko/

担 当：港湾整備グループ